

環境教育の充実のための研究

足利市立教育研究所

1 趣 旨

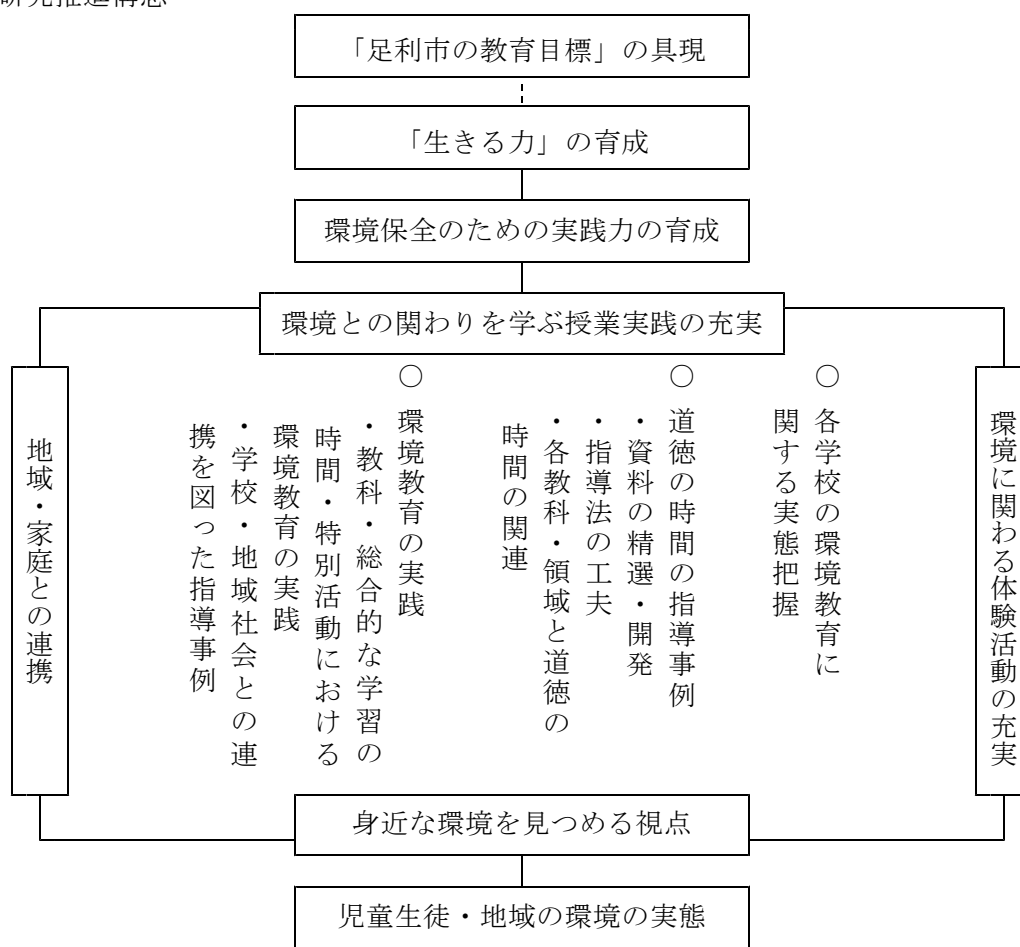
科学技術の進歩は、生産方法を革新させ、暮らしを飛躍的に豊かにしてきた。しかし、このような人々の活動の変化は、自然や地球全体の環境の変化に大きく影響を及ぼしている。これらを解決するためには、21世紀の社会を持続可能な仕組みへと変えていく必要がある。今後、環境教育を充実させていくことは、これまでも増して重要な課題である。

本市においては、「足利市の教育目標」の61番に「ものを大切にし、資源を有効に活用することができる」ことを乳幼児期～高齢期までの重点目標として掲げている。その具現に向けて、学校では委員会活動での実践やPTAと協力してのリサイクル活動など様々な体験的な活動を実施している。

しかしながら、子供たちの実態は「足利市の教育目標」の第6次具現状況調査によると、小学校6年生の児童では「水や電気の節約」の調査において、むだをしないように使うと回答した割合に、やや課題が見られる。今後、資源の有効活用を含め、環境を守ろうとする心の育成をより一層図りながら、「自然と人間の共生」という考え方に立ち、長期的な展望をもった指導を、発達段階に応じ具体的に展開していくことが大切である。

そこで、道徳教育を中核としながら、環境を大切にしようとする実践力を育成していくために、その要の時間である「道徳の時間」の指導における資料の精選・開発や指導法の工夫、さらに、各学校の実態を踏まえて豊かな体験活動と関連させた横断的な指導の在り方について研究を進めていきたい。

2 研究推進構想



3 研究の内容

- (1) 各学校の環境教育に関する実態をアンケート調査によって把握する。
- (2) 小・中学校の道徳の時間において、【内容項目3-(2)】についての資料を精選し、指導事例をまとめる。その際、各教科・領域等の環境教育についての関連を考慮してまとめる。
(小学校)
「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する」(低学年)
「自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする」(中学年)
「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする」(高学年)
(中学校)
「自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める」
- (3) 教科・総合的な学習の時間・特別活動等において、環境教育に関する実践について、まとめる。
- (4) 学校・地域社会と連携した環境教育についての指導事例を紹介する。
(例、地域クリーン活動など)

4 研究計画

<平成22年度>

<平成23年度>

- | | |
|--|--|
| (1) 第1回研究会(5/21)
○研究構想・内容、研究計画の検討
○研究協議 | (1) 第1回研究会(5/19)
○研究の方向性の確認
○各学校の実践事例の整理
○研究協議 |
| (2) 第2回研究会(10/8)
○実態調査用のアンケート検討
○研究協議
★各学校へアンケート調査
(11月～12月) | (2) 第2回研究会(12/9)
○各学校の実践事例のまとめ
○道徳の時間の資料の精選
指導案の検討
○研究協議 |
| (3) 第3回研究会(2/18)
○アンケート集計結果のまとめ
○道徳の時間の資料の検討
○各学校の実践について検討
○研究協議 | (3) 第3回研究会(2/16)
○研究の成果とまとめ
○研究協議 |

5 環境教育に関するアンケート調査より(P3～P8参照)

6 実践事例について(P9～P54参照)

- (1) 道徳の時間における環境教育の実践 (坂西北小学校・協和中学校・愛宕台中学校)
- (2) 教科(理科)における環境教育の実践 (北中学校)
- (3) 総合的な学習の時間における環境教育の実践 (葉鹿小学校)
- (4) 生活科における環境教育の実践 (葉鹿小学校)
- (5) 特別活動における環境教育の実践 (御厨小学校)

5 環境教育に関するアンケート調査より

(1) 実施時期と実施対象 平成22年11月に市内小・中学校33校

(2) 調査内容 (アンケート調査用紙)

環境教育の実態に関するアンケート調査

平成22・23年度教育研究所研究員研究「環境教育の充実のための研究」

新学習指導要領の主な改善事項の1つに「環境に関する学習の充実」があげられました。今年度から足利市でも、学校教育指導計画の努力の方向の1つに「環境教育の充実」を位置づけ、より一層の環境教育の推進に努めようとしています。そこで、これまでの各学校における環境教育の取組みを見つめ直して、今後の環境教育の充実・推進に生かすために下記のアンケートを作成しました。記入例に沿って、回答をよろしくお願いいたします。

質問①	これまで、下記の項目A~Jの実践をしてきましたか。
質問②	それは、どのような場面(教科・領域など)で実践しましたか。
質問③	その実践のねらいを下のA~Kを参考に記入してください。 ア 自然のよさを体感させる。 イ 地域を大切にしようとする心情を育む。 ウ 循環型社会に向けての実践力を養う。 エ 環境と健康について考えさせる。 オ 自分たちでできることを考えさせる。 カ 自然を愛し、命を慈しむ心情を育む。 キ 自然環境への理解を深める。 ク その他(具体的に)
質問④	その実践の実施計画はありますか。

学校名:

学校

項 目	①実践の有無 (○×)	②実践した場面 (教科・領域など)	③ねらい (上記参照:複数回答可)	④実施計画の有無 (○×)
記入例	○	総合学習	ア	×
A 地域散策や校内の動植物の観察				
B 小動物の飼育				
C 植物の栽培、植樹活動				
D 地域や校内のクリーン活動				
E 資源物(アルミ缶・牛乳パック・エコキャップ・新聞紙等)回収				
F 環境調査(水質検査・土壌検査・大気汚染調査等)				
G 節電・節水運動				
H EM・生ゴミ処理機の活用				
I 環境問題についての調べ学習				
J その他()				

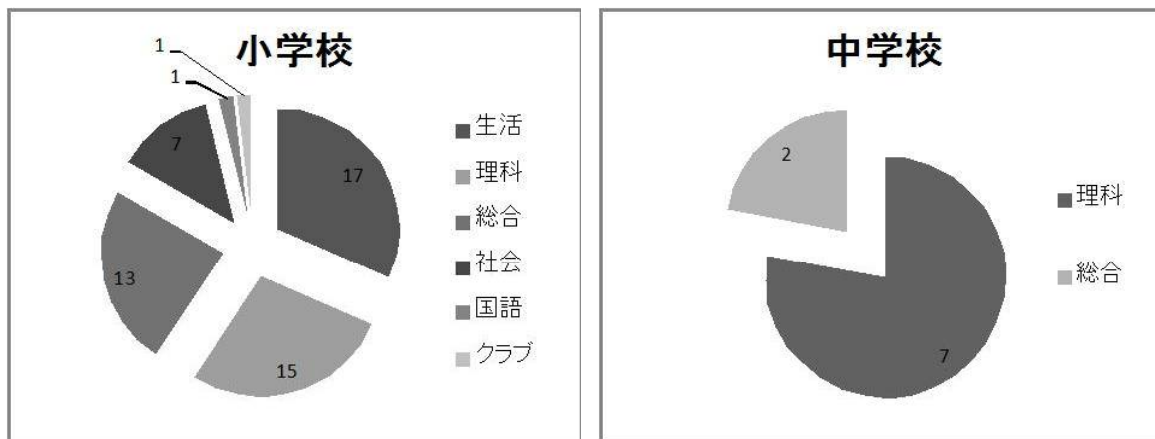
(3) 調査結果より

① 地域散策や校内の動植物の観察を実施していますか。

小学校：100% (22校)

中学校：72.7% (8校)

○実施した教科・領域



○実施したねらい (上位2~4つ)

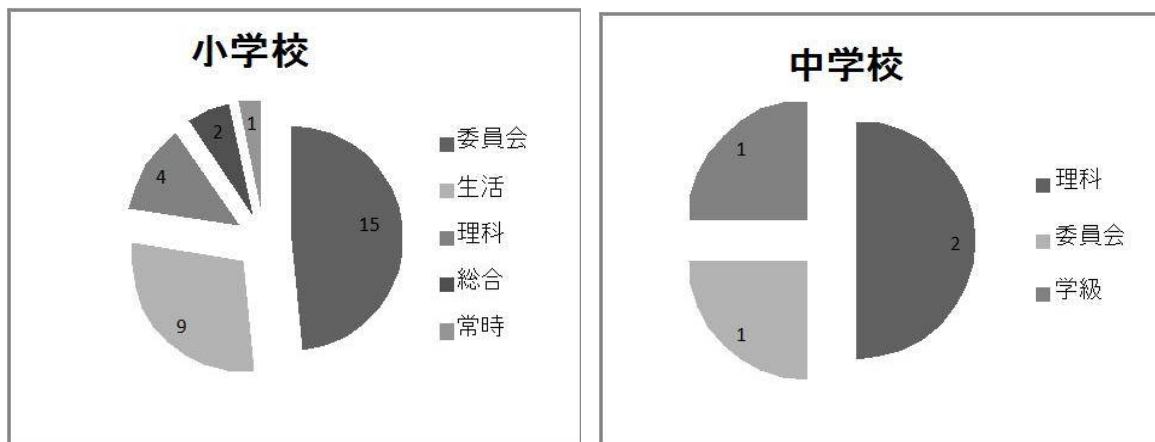
- ア 自然のよさを体感させる。
- イ 地域を大切にしようとする心情を育む。
- カ 自然を愛し、命を慈しむ心情を育む。
- キ 自然環境への理解を深める。

② 小動物の飼育を実施していますか。

小学校：95.5% (21校)

中学校：27.3% (3校)

○実施した教科・領域



○実施したねらい (上位2~4つ)

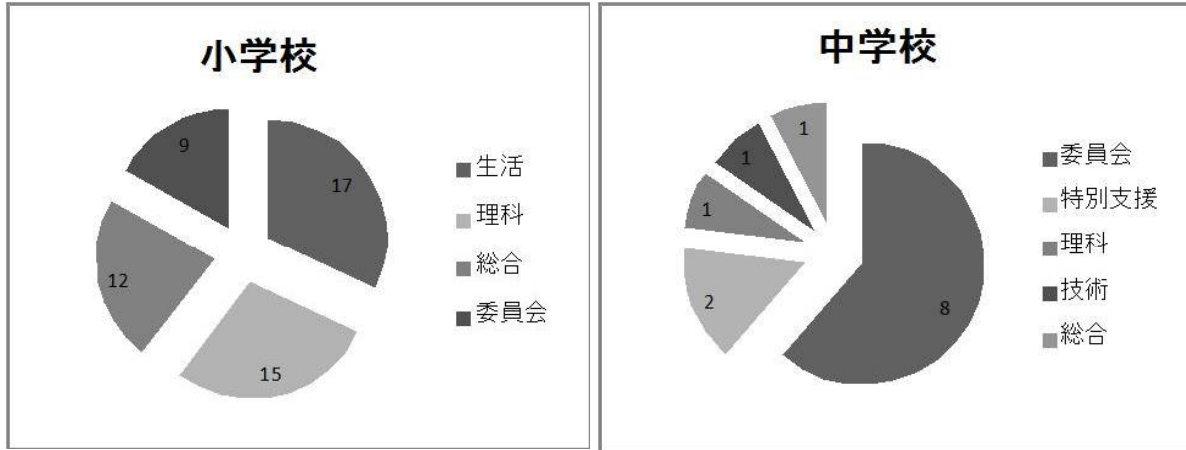
- カ 自然を愛し、命を慈しむ心情を育む。
- オ 自分たちでできることを考えさせる。

③ 植物の栽培や植樹活動を実施していますか。

小学校：100% (22校)

中学校：100% (11校)

○実施した教科・領域



○実施したねらい (上位2~4つ)

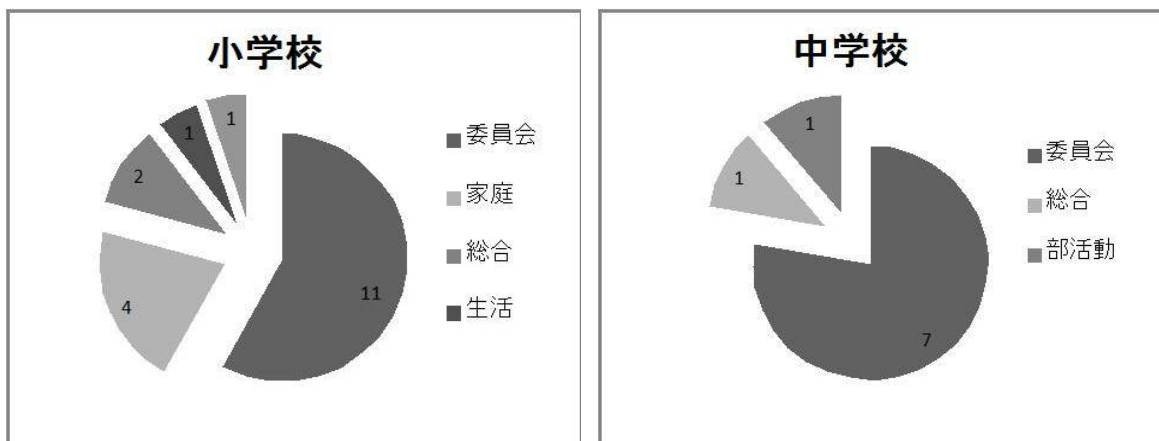
- カ 自然を愛し、命を慈しむ心情を育む。
- ア 自然のよさを体感させる。
- キ 自然環境への理解を深める。
- オ 自分たちでできることを考えさせる。

④ 地域や校内のクリーン活動を実施していますか。

小学校：77.3% (17校)

中学校：72.7% (8校)

○実施した教科・領域



○実施したねらい (上位2~4つ)

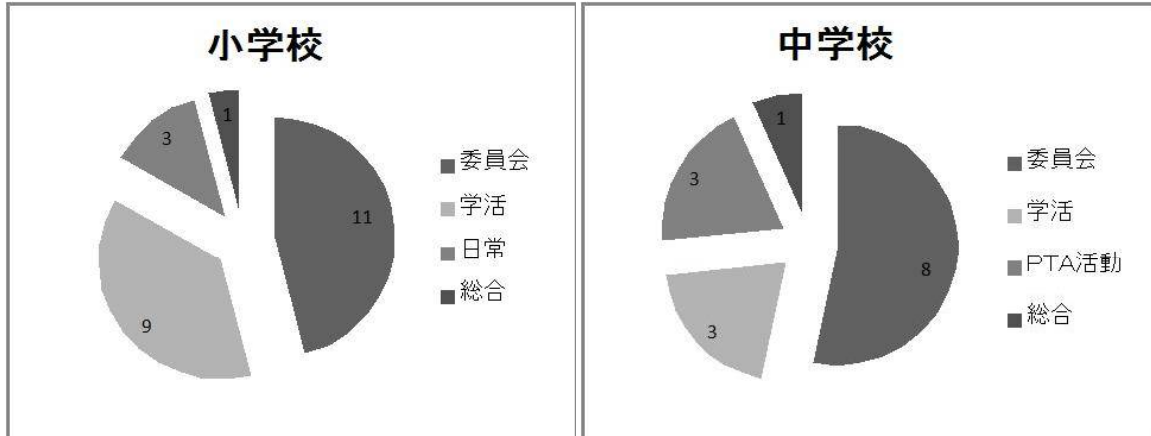
- オ 自分たちでできることを考えさせる。
- イ 地域を大切にしようとする心情を育む。

⑤ 資源物（アルミ缶・牛乳パック・エコキャップ・新聞紙等）の回収を行っていますか。

小学校：100% （22校）

中学校：100% （11校）

○実施した教科・領域



○実施したねらい（上位2～4つ）

ウ 循環型社会に向けての実践力を養う。

オ 自分たちでできることを考えさせる。

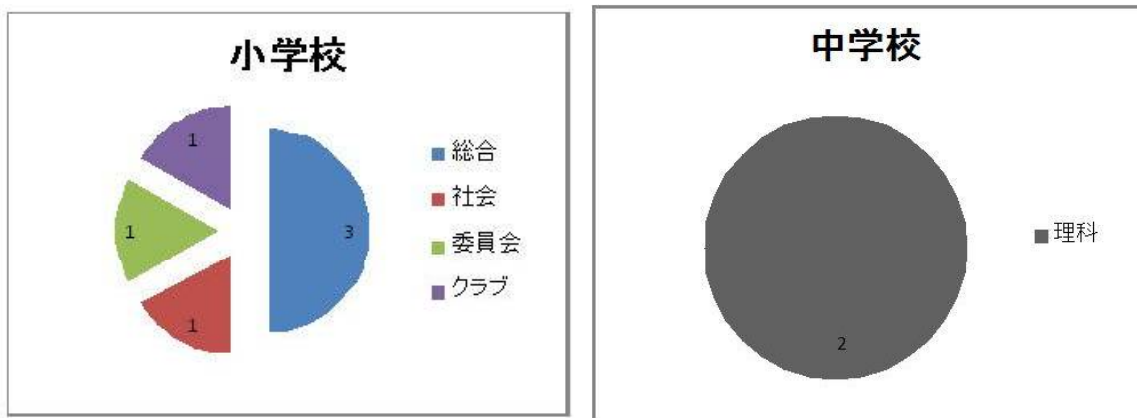
キ 自然環境への理解を深める。

⑥ 環境調査（水質検査・土壌検査・大気汚染調査等）を実施していますか。

小学校：31.8% （7校）

中学校：18.2% （2校）

○実施した教科・領域



○実施したねらい（上位2～4つ）

キ 自然環境への理解を深める。

カ 自然を愛し、命を慈しむ心情を育む。

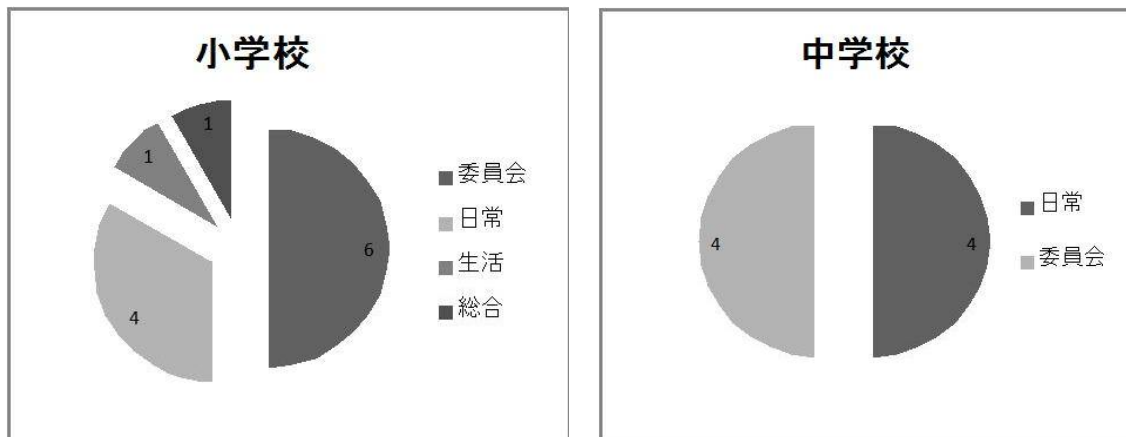
イ 地域を大切にしようとする心情を育む。

⑦ EM・生ゴミ処理機の活用をしていますか。

小学校：54.5% (12校)

中学校：81.8% (9校)

○実施した教科・領域



○実施したねらい (上位2~4つ)

オ 自分たちでできることを考えさせる。

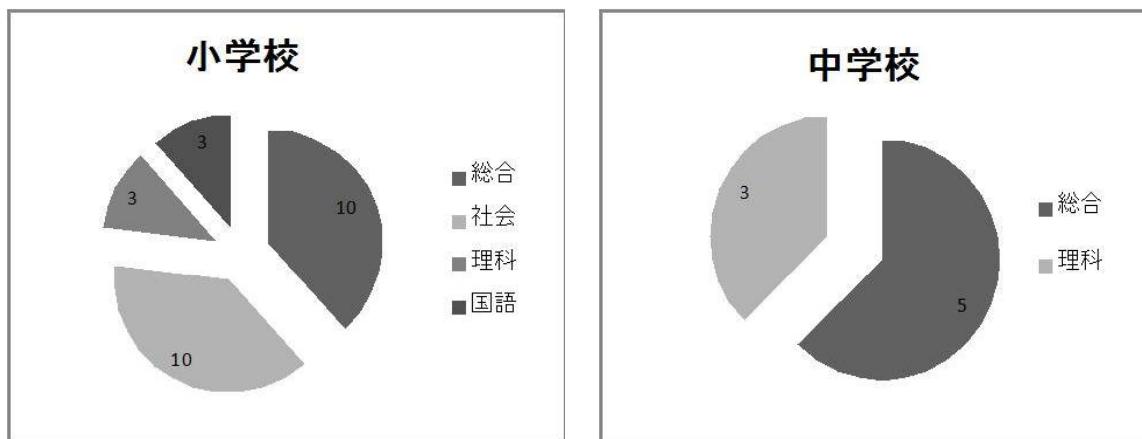
ウ 循環型社会に向けての実践力を養う。

⑧ 環境問題についての調べ学習を実施していますか。

小学校：90.9% (20校)

中学校：72.7% (8校)

○実施した教科・領域



○実施したねらい (上位2~4つ)

オ 自分たちでできることを考えさせる。

キ 自然環境への理解を深める。

エ 環境と健康について考えさせる。

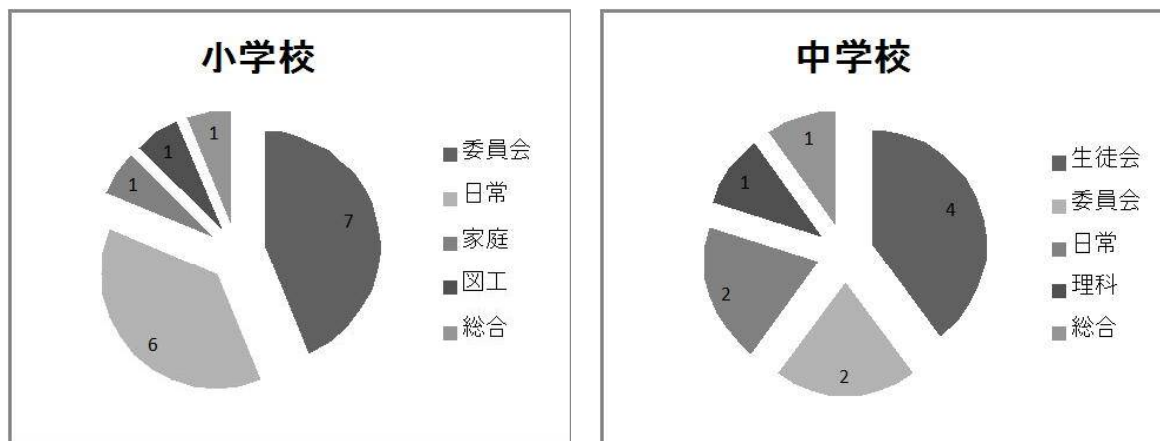
ウ 循環型社会に向けての実践力を養う。

⑨ 節電や節水運動を実施していますか。

小学校：90.9% (20校)

中学校：72.7% (8校)

○実施した教科・領域



○実施したねらい（上位2～4つ）

オ 自分たちでできることを考えさせる。

ウ 循環型社会に向けての実践力を養う。

⑩ アンケート調査から把握できたこと

ア 地域散策や校内の動植物の観察については、小学校では、すべての学校で、中学校においても、約7割の学校で実施されている。主に、小学校では生活科や理科、中学校では理科を中心に実施されている。

イ 小動物の飼育については、小学校では、ほとんどの学校で実施されているが、中学校においてはあまり実施されていない。小学校では、主に委員会活動、生活科を中心に実施されている。

ウ 植物の栽培や植樹活動については、すべての小・中学校において実施されている。主に、小学校では生活科や理科、中学校では委員会を中心に実施されている。

エ 地域や校内のクリーン活動については、小・中学校とも、約75%の学校で実施されている。主に、委員会を中心に実施されている。

オ 資源物の回収については、すべての小・中学校において実施されている。主に、委員会を中心に実施されている。

カ 環境調査については、小・中学校ともあまり実施されていない。

キ EM・生ゴミ処理機の活用については、小学校では、約半数、中学校では、約8割の学校で実施されている。主に、委員会や日常の活動で実施されている。

ク 環境問題についての調べ学習については、小学校では約9割、中学校では約7割の学校で実施されている。主に、総合的な学習の時間や理科・社会で実施されている。

ケ 節電や節水運動については、小学校では約9割、中学校では約7割が実施していた。ただし、調査時期が東日本大震災前の調査だったため、今年度の実態とは違うことも考えられる。

6 実践事例

(1) 道徳の時間における環境教育の実践

～自然愛護の心情からせまる小学校の実践例1～

道徳学習指導案

実施時期 6月初旬
第1学年

1. 主題名 植物を育てる

(資料：「ぼくの あさがお」 東京書籍 明日をめざして1)

2. 主題設定の理由

(1) 主題のねらいとその道徳的価値について

・主題のねらい

◎3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

・ねらいの道徳的価値

自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度の育成は、環境教育の重要な課題でもある。低学年においては、特に身近な自然の中で遊んだり、動植物を飼育栽培して自然に親しむ直接体験が必要である。生活科などでの体験をもとにしながら、自然や動植物を愛するやさしい心を養うことが大切である。

また、3－(1) 生命の尊重との関連も欠かせない視点であると考える。

(2) 児童の実態について

低学年の児童は、生活科などで、さまざまな植物を栽培する活動を体験し、開花や収穫をとっても楽しみにしている。植物の成長は、児童に期待感や喜びを与えてくれる。毎日世話を続け、成長を見守ることによって、児童の植物への愛着は深まっていく。しかし反面、植物を育てる活動は、根気のいる長期的なかわりであり、毎日の地道な積み重ねが必要である。子どもは、発芽や開花などの大きな変化には感動するが、成長の遅い植物を日々世話をすることに飽きたり、大事に育てていても、つい水やりを怠って花を枯らしてしまいがちである。(実際の学級の実態については省略)

そこで資料を用いて、自分とアサガオをとの関わりを振り返り、その喜びや生命の重さを実感し直すことで、動植物を愛し、慈しむ心を高めていきたい。

(3) 資料について

・あらすじ

ぼくのアサガオは、水やりを忘れた翌日に葉っぱがしおれてしまう。このまま枯れてしまうと心配になったぼくは、「ごめんね。」と何度も言いながら水をあげる。

翌朝、心配で早く起きたぼくは、小さな蕾を見つけ、アサガオに話しかける。

「がんばれ、ぼくの あさがお。 たくさん たくさん おみずを あげるよ。

きれいな はなを いっぱい さかせてね。」

- ・資料によって見出した価値

小さな草花にも命がある。芽が出て成長し、つぼみをもち、やがて大きな花を開くアサガオを、辛抱してじっくり育てることによって得られる喜びに共感させることで、物言わぬ植物に対するやさしい思いやりの心を育てていきたい。

3. 各教科・領域との関連(主に生活科との関連)

事前	道徳の時間	事後
生活科 栽培単元 はながうたうよ るんららん 「アサガオをそだてよう」	主題名 植物を育てよう 資料名 ぼくの あさがお	生活科 栽培単元 はながうたうよ るんららん 「アサガオをそだてよう」
指導計画 1次 アサガオのたねを植えよう ・タネをよく見てみよう ・タネを植えよう 2次 アサガオさんのお世話をしよう ・芽が出たよ ・肥料をあげよう1 ・支柱を立ててあげよう ○日常の活動 単元目標 【生活への関心・意欲・態度】 栽培活動を通してアサガオの成長の変化に関心を持ち、進んで世話をすることができる。 【活動や体験についての思考・表現】 世話をする中で、発芽やツルが伸びる様子などの成長の変化をとらえ、表現できるようにする。 【身近な環境や自分自身への気付き】 アサガオの変化から生命をもって成長していることに気付き、親しみをもってアサガオの世話をしている自分自身に気付くことができるようにする。	生活科における活動がある程度進み、世話をする喜びや苦勞を少し体験した時期に取り入れたい。 また、花が咲く前のこの時期は、変化に乏しく水やり等も忘れがちになってくるため、「ぼく」に共感しやすいと思われる。	指導計画 2次 アサガオさんのお世話をしよう ○日常の活動 ・肥料を上げよう2 *道徳の時間で学んだことで活動にどのような変化が出てきたか見取りたい。 3次 お花を残そう ・アサガオさんの絵を描こう ・お花でどんなことができるかな 4次 アサガオさんありがとう ・タネとりをする ・アサガオさんの思い出をまとめる ・タネのプレゼント *タネの収穫から、植物が懸命に生命をつなげようとしていることに気付かせ、自然の神秘や命を実感をもってとらえさせたい。

4. ねらい

自然に親しみ、動物や植物をやさしい心で世話しようとする心情を育てる。

5. 展開

◇自校のチェックポイントから

過程	主な学習活動	主な発問と子どもの心と力の高まり	指導の方法と指導上の留意点
気 付 く (導 入)	①日頃の動植物に対する気持ちを発表し合う。	○みなさんは、おはなやどうぶつたちとおはなし できますか。 ・できる。 ・できないけれど、気持ちはわかる。 一 じ に ま で 広 げ て 考 え さ せ たい。	・世話をしているアサガオだけでなく、学校で飼育している動物や家庭のペットなどに対してのイメージを広げて考えさ ・「できる。」「できない。」にとどまらず、アサガオの種をまいたときの気持ちや、芽が出たときのうれしさを思い出させたい
考 え る ・ 深 め る	②「ぼくのあさがお」を読んで話し合う。	○〈発問〉「ぼく」は、あさがおをみたとき、どんなことにきがつきましたか。 ・しまった。きのうみずやりをわすれた。 ・あさがおが しおれている。 ・くきも げんきがない。 ら 2人の思いを把握する。 ○〈発問〉みずをあげながら、ぼくはあさがおにどんなことをはなしていたでしょう。 ・ごめんね。 ・元気になってね。 ・たくさんお水をあげるよ。 ・かれないでね。 ◎〈発問〉ちいさなつぼみをみつけたとき、「ぼく」はどんなことをおもったでしょう。あさがおも、きつとなにか、いっていますね。そうぞうしてみましよう。 「ぼく」 ・かれなくて よかったね。 ・げんきで うれしいよ。 ・みずやりを わすれてごめんね。 ・がんばれ ぼくのあさがお。 ・きれいなはなを いっぱい さかせてね。 「あさがお」 ・もう だいじょうぶだよ。 ・おみずをくれて ありがとう。 ・がんばって はなをさかせるよ。	・うっかり水やりをさぼってしまう「ぼく」の立場に共感させる。 ◇水やりを忘れがちな A くん、B くん の表情や発言から 2人の思いを把握する。 ・「ぼく」の心配な気持ちや胸のどきどきに共感させ、元気を取り戻して欲しいという気持ちを深めさせる。 ・自分と同じように大切な生命であるという気持ちを持たせていく。 ・「ぼく」と「あさがお」の両方の気持ちを考えることで植物を思うやさしい心と植物から受ける心地よさを共感的にとらえさせたい。
見 つ め る 高 め る (終 末)	④自分たちが、アサガオを育てている時の写真を見て、心をこめて世話をしている様子を実感し、その気持ちを手紙に書く。	・みなさんが あさがおの 世わをしているようすは どうですか ・いっしょうけんめいに やっている。 ・たのしそう。 ・うれしそう。 ・しんぱいそう。 ○お世わをしているあさがおに（動植物に）てがみをかいてみよう。 ・げんきに そだって ありがとう。 ・まいにち みずやりをするよ。 ・はっぱがいっぱいでてきてくれてうれしいよ。 ・がんばれ ぼくのあさがお。 ・みずを あげなくて ごめんね。 ・これから きれいに さいてね。	・自分たちが世話をしているときの写真を見せることで、心をこめて世話をしている気持ちを実感をもってとらえさせる。 ・アサガオに対する感謝の気持ちや命を感じることから、心をこめて世話をする喜びを手紙に込められるよう助言する。 ◇文章で表現することが上手くできず、困っていないか把握する。

～自然愛護の心情からせまる小学校の実践例2～

道徳学習指導案

実施時期 6月初旬
第6学年

1. 主題名 地球を救う

(資料:「愛華さんからのメッセージ」 東京書籍 明日をめざして6)

2. 主題設定の理由

(1) 主題のねらいとその道徳的価値について

・主題のねらい

◎3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。

・ねらいの道徳的価値

人間はこれまで、自然とのかかわりの中で多くを学び、調和的に生きてきた。しかし、科学の発達とともに自然に対する脅威や感謝等を忘れかけてしまったことも事実である。自然破壊が続く現在、環境問題は人類共通の課題であり、自然と人間の関係を考えていくことは21世紀を生き抜いていく人類にとって深刻な問題である。これからは、自然を保存するだけでなく、より積極的に自然を豊かにしていかなければならない。

そのためには環境問題に関する身近な身の回りの問題から地球規模の問題までの広がりをもたせ、学習領域も自然科学・社会科学の分野から一人一人の感性や心の問題にまで広げていくことが必要である。そのことから、自然と人間との関わりを考え、自然を大切にしようとする態度を身近な実践を通して育成していきたい。

(2) 児童の実態について

足利は豊かな自然に恵まれているので、子どもたちは「自然のありがたさ」や「よい環境の大切さ」をほとんど感じることなく生活している。

一方、子どもたちは環境問題についてマスコミやニュースを通して知っており、環境を守るための活動にも「アルミ缶回収」「エコキャップ運動」「残飯の堆肥化」など幅広く取り組んでいる。しかし、それらの活動がどのように環境問題解決につながっているかについての理解は乏しく、環境を守る意識は低い。そのため、主体的・積極的な活動にはなっていないのが実態である。(実際の学級の実態については省略)

そこで、主体的に強い気持ちで環境問題に取り組んだ同じ年の児童の事例に触れることで、問題意識を高め、より広い範囲で環境問題をとらえ、環境をよくしようとする態度を育てたい。

(3) 資料について

出典「心があたたかくなる話4年生」ポプラ社(真鍋和子作)「愛華ちゃんのねがい」
「地球の秘密」出版文化社(坪田愛華作)

・あらすじ

坪田愛華さん（島根県簸川郡斐川町立西野小学校6年）は、環境問題について調べてまとめるという国語の課題を、2ヶ月半かけて得意の漫画で表現した。「地球の歴史を探れ・自然界のバランスを知ろう・現在の地球を探れ・みんなで地球を守ろう・その後のお話・感想の6章構成となっている。そして、1991年12月25日『地球の秘密』が完成し、その数時間後、愛華さんは突然、脳内出血で倒れ、12月27日朝、12年という短い生涯を閉じた。

その後、「地球の秘密」は、各国の言葉に翻訳され、世界中で読まれている。そして「国連地球環境子どもサミット」でも「わたし一人ぐらいという考えはやめようと思います・・・」という本の中にあるメッセージが紹介された。

・資料によって見出した価値

愛華さんは、国語の宿題から環境問題について調べ始め、お母さんの話から身近な斐伊川のことを心配して本格的に漫画づくりに取り組んで行く。環境を大切にしないと大変なことになるという気付きで終わらずに、さらに詳しく調べていく中で、「自分のできることは、漫画でみんなに知らせること」という強い思いをもつようになった愛華さんの態度に学んでほしい。そして、愛華さんの「わたし一人ぐらいという考えはやめようと思います」という言葉からも、自分でできることを実行していく態度の大切さを気付かせたい。

3. 各教科・領域との関連(主に特別活動との関連)

事 前	道徳の時間	事 後
特別活動：児童会活動	主題名 地球を救う 資料名 愛華さんからのメッセージ	特別活動：学級活動 児童会活動
アルミ缶回収・エコキャップ運動・大地くんの活用など児童会を中心に環境を良くしようとする日常的な活動に取り組む中で、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。	資料から、愛華さんの生き方に学び、自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする態度を養う。自分の環境をよくする活動の中で、学んだ価値を生かしていこうとするところまで高めたい。	・学級活動 節電アクションやストップ温暖化アクションへの取り組みを計画し、さらに自分のできることを広げようとする態度を育てる。 ・特別活動 事前に（以前から）取り組んでいた活動を、道徳の時間の学びを生かして充実させていきたい。

4. ねらい

自然環境と人間とのかかわりから、人間も自然の中で生かされていることを考え、自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする態度を養う。

5. 展開

◇自校のチェックポイントから

過程	主な学習活動	主な発問と子どもの心と力の高まり	指導の方法と指導上の留意点
気 付 く (導 入)	①新聞やテレビのニュースなどで話題になっている自然環境の問題について、知っていることを発表する。	○環境問題について、何か、見たり聞いたりしたことはありますか。 ・地球温暖化 ・大気汚染 ・水質汚染 ・森林破壊	・メディアからの情報でよいが、地域の実状など身近な内容がでてくれば、それを中心に扱いたい。 ・事前に「地球の秘密」を読ませることができればその感想を聞いて、環境への思いや愛華さんの思いに触れた導入ができると効果的である
考 え る ・ 深 め る (展 開 ・ 前 段)	②「地球の秘密」の実物を見て、小学生の環境問題への取り組みであることを知る。 ③「愛華さんからのメッセージ」を読んで話し合う。 ・調べ始めたときの愛華さんの気持ちについて話し合う。 ・調べていくうちに、愛華さんの気持ちが変わっていったことについて話し合う。	・どうして、こんなすごい本が作れたのだろう。 ・本を作るなんてすごい。 ・小学生に本当にできるのかな。 ・愛華さんてどんな人だろう。 ○〈発問〉愛華さんは、どんな思いから調べてまとめようと思ったのでしょうか。 ・どうしたら環境を守れるか調べたい。 ・斐伊川の魚が心配だ。 ・もっとくわしく調べたい。 ◎〈発問〉愛華さんは、「地球の秘密」を書きながら気持ちが変わっていききました。どんな風に気持ちが変わっていききましたか。 ・「地球の秘密」を書いて、みんなが環境を守るようにさせたい。 ・自分にできることをやっぺいこう。 ・わたし一人ぐらいという考えはやめよう。 ○〈発問〉愛華さんの願いは世界中に広がりました。みなさんの心にはどんなことがとどきましたか。 ・みんなが環境のことについて考えるようになってくれればすごい。 ・愛華さんの思いが通じた。 ・環境のことをみんなが考えるようになってよかった。 ・みんなが、自分にも環境について何かいいことができるんじゃないかと思ったと思う。	・実物を示すことで、かなり強い気持ちがないと作れないと感じ取らせたい。 ・愛華さんも、始めは身近なことから環境について調べ始めたことに気付かせたい。 ・自分でできることをやろうとする強い意志に感銘を受けられるように、意見を取り上げるようにする。 ◇なかなか最後までやり遂げられない Aくんが愛華さんの決意に触れて、どう感じたか把握する。 ・愛華さんの努力が報われたことから、自分たちにもできることがあると感じ取らせるとともに、未来の環境についても明るい展望をもたせたい。
見 つ め る (後 段)	④これまで自分が学校や家庭でしてきた自然環境をよくしようとするための実践を発表する。 ⑤自分のこれからの実践への思いを書く。	○毎日の生活の中で、自然環境をよくしようとするためにどんなことをしていますか。 ・アルミ缶回収 ・エコキャップ運動 ・ゴミの分別 ・節電 ○これから、その活動にどんな思いをもって取り組んで行きたいですか。 ・身近なことでも世の中は変わっていくから、どんなに小さいことでも取り組んで行きたい。 ・自然を大切にするという気持ちをもっと強くもって取り組んで行く。 ・まだまだ自然環境を守れることはあるから、これからもしっかり続けていく。これまではやらなかった○○にも挑戦する。	・自分もこれまで、環境を守り・よくする活動に取り組んできたことに気付かせ、現在も継続中であることにも気付かせたい。 ・自分の自主的・主体的な意志で継続して取り組めるよう高めたい。 ◇自分の活動に自信がもてない児童はいないか、表情や記述内容から把握する。
高 め る (終 末)			

～自然への畏敬からせまる中学校の実践例3～

道徳学習指導案

1 主題名 自然への畏敬

2 学習指導要領

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

－ (2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める

3 本授業の主題について

今日、環境問題についての記事が新聞やテレビ等のメディアから配信されない日はないと言っても過言ではない。学校においても、環境教育の実践は急務である。ものを大切に扱うことや節電、リサイクルなど、実際に実践している学校も多い。

しかし、このような実践をすることだけで、これからの地球を護る立場の生徒が環境問題を積極的に考える人に育つかといたら、十分とはいえない。真の環境教育とは、地球愛護、自然愛護という心情のもと、環境保全などの具体的な実践ができる人を育てることではないかと考える。

本主題である「自然への畏敬の念」を持つことは、自然を敬い、自然とともに生きようとする心情を育てるものであると考えられる。そして、人間はさまざまな意味で有限なものであり、自然の中で生かされていることを自覚することで、人間の力を超えたものを素直に感じとる心が深まり、これに対する畏敬の念が芽生えてくるであろう。さらに、「自然愛護」につながる具体的な行動が、地球環境保護活動であり、生徒の道徳的実践力の一つではないかと考える。

この価値を高める道徳教育の実践を通し、環境教育へとつなげていきたい。

4 生徒の実態

(1) 本校のようすと生徒の実態

本中学校区は、田畑に囲まれた環境の中にあり、小さい頃から、用水路でのザリガニ取りや渡良瀬川での釣りなどを楽しんだ生徒も多い。中学生のこの時期は、豊かな感性が育ってくるとともに、自然や人間の力を超えたものに対しての美しさや神秘、怖さなどを感じるようになってきている。スキー宿泊学習や修学旅行においても日本の四季や美しい景色、文化に触れることができた。理科での野外観察や校庭での体育の授業を好む生徒は多い。自然の中にいることで心が癒されることに気づくこともある。

環境破壊は、文明の発展に伴って引き起こされているものである。今の地球環境の現状をとらえて、これから生きる生徒に環境保護について積極的に関わろうとする意欲を持たせたい。

(2) 事前アンケート (別紙)

生徒の実態として、今までにどのくらい自然とふれあう体験をしてきたのか、家庭生活で行っているエコ活動は何かについてアンケートをとった。自然体験については30項目挙げ、体験したことがあるものに丸をつけさせた。事前アンケートによると、さまざまな自然体験のうち半分くらいは体験したことがあると答えた生徒が多かった。中でも、「海や川で遊んだことがある。」や「植物を育てたことがある。」は、ほぼ全員が体験したことがある。それに対して、「星座を見つけることができる。」「日食、月食を見

たことがある。」「木を植えたことがある。」と答えた生徒は5%に過ぎなかった。

家庭でできるエコ活動については、21項目を挙げ、実施しているものを答えさせたところ、0～4項目実施・・・28.6%、5～9項目実施・・・50.0%、10項目以上実施・・・21.4%になった。平均は6.5個となった。半分実施している家庭が2割という結果にエコ活動はまだ浸透していないことがわかった。積極的な家庭とそうでない家庭に差があり、家庭での意識の差が生徒にも現れているようだった。

5 各教科・領域との関連

事前	道徳の時間	事後
学級活動：1時間 「合唱コンクールに向けて」 音楽科：3時間 全体合唱「大地讃頌」練習	本時：1時間 「大地讃頌」	学校行事：5時間 「合唱コンクール」 道徳の時間：1時間 「合唱コンクールのふりかえり」

6 本時の指導

(1) 資料名 「大地讃頌」 作詞：大木惇夫 作曲：佐藤 眞
カンタータ「土の歌」より

(2) ねらい

- ①「土の歌」の鑑賞を通して、作者の自然に対する気持ちを知り、自然の偉大さを考え、自然への畏敬の念を持つことができる。
- ②これからの生活で「自然愛護」について考えることができる。

(3) 資料の工夫

- ①「大地讃頌」の意味や作詞家の願いを感じ取り、自然への畏敬の念を持てるようにする。
- ②イメージ映像やCDなどの視聴覚機器の活用により、意識の高揚を図る。
- ③準備物：CD「土の歌」、デッキ、PC、テレビ、掛け図（大地讃頌の歌詞）

(4) 資料について

- ①「大地讃頌」は、大木惇夫氏作詞によるカンタータ「土の歌」の最終楽章の第7楽章である。この曲は昭和37年に作詞・作曲された。

本校の合唱コンクールにおいて、毎年全校合唱として歌われてきた。大変盛り上がる曲ではあるが、歌詞が難解で、あまり深く理解せずに歌っている生徒も少なくない。そこで、第1楽章から第6楽章の鑑賞を通して、歌詞の意味や背景、作者の願いを考えさせたい。

②歌詞の主な内容

- ・第1楽章「農夫と土」第2楽章「祖国の土」…土に親しみ深い農夫の登場や祖国の土の尊さを感じさせる。土の偉大さ、母なる大地→作物を生み出す土。
- ・第3楽章「死の灰」…広島・長崎の原爆がもたらした不幸を歌っている。作詞者は広島県出身。暗く不気味な音楽になっている。
- ・第4楽章「もぐらもち」…タイトルが面白く、生徒が興味を持ちやすい。モグラはユニークだが、人間を馬鹿にする歌詞なので、内容は暗い感じ。

- ・第 5 楽章「天地の怒り」…人災や天災、大きな被害をもたらすものへの恐怖を歌っている。暗い曲。
- ・第 6 楽章「地上の祈り」…平和を祈る讃美歌のような曲。
- ・第 7 楽章「大地讃頌」…「大地をたたえよ。」に作者の願いが込められているのがわかる。

(5) 展開

学習内容	生徒の反応	指導上の留意点	評価
1 大地についてのイメージを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・地面 ・土 ・植物が育つために必要 	<ul style="list-style-type: none"> 大地＝地球に置き換えてみる。 大地のイメージを聞く。 	
2 現在学んでいる大地讃頌とはどんな歌か考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・大地をたたえる歌 ・大地を愛せよ。 ・大地を誉めよう。 ・大地はいろいろな生き物の源だから大切にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大地讃頌」の歌詞について、改めてどんな歌なのか考えさせる。 	
3 カンタータ「土の歌」の第 1 楽章、第 2 楽章の歌詞の範読を聞いて感想をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの作物をつくってくれるから感謝しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大地讃頌と比較させながら、範読する。 ・第 1 楽章と第 2 楽章の歌詞から、「母なる大地」の意味を考えさせる。 ・大地を耕し、種をまき生活してきた人間が昔からいること。たくさんの恵みを与えてくれる自然に感謝することをとらえさせる。 	
4 第 3 楽章、第 4 楽章、第 5 楽章を聴き、第 1, 2 楽章との違いについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3～5 楽章は暗い歌詞だ。 ・怖い ・今までの大地の歴史を表わしているんだ。 ・戦争や天災に人間が苦しめられてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 楽章から第 5 楽章の鑑賞をし、比較することで、曲の背景を考えさせる。 ・戦争や災害を表す言葉を歌詞から取り上げて話し合わせる。 	
5 自然破壊の映像を見ながら考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別をしよう。 ・きれいな自然を残したい。 ・自然は今も昔も変わらず存在している。 ・人間のエゴで開発などをしてはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの大地（地球）の歴史を振り返り、人間のしてきたことや自然からのしっぺ返し、人間の力を超えた神秘などを考えさせる。 ・自然破壊にかかわる写真の映像から、人間生活が原因で自然が破壊されていること、自然を護るのも人間なのだという自覚や自然との共存のしかたについて考えさせる。 	

<p>「自然と共に生活する」とは、 どのようなことか 考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然も人間もお互いに生かし合える生活。 ・自然に感謝する生活 ・自然に生かされていることを意識する生活。 ・人間は自然を作れないことを考えること ・大地をたたえよう。 ・気持ちを込めて歌おう。 ・感動的だ。 ・こんな願いが込められた歌だということがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい自然が心を癒すこと、人が生まれる前から地球には自然があったこと、そして今も変わらずにあること、しかしそれを壊すのも、守っていくのも人間なのだという自覚を持たせたい。 ・第6楽章で平和への願いを感じ取らせ、第7楽章「大地讃頌」を改めて聞くことで作者の願いを考えさせる。 	<p>○「土の歌」の鑑賞を通して、自然への畏敬の念を深めることができたか。</p>
<p>6 第6楽章、第7楽章大地讃頌を鑑賞する。</p>			

7 研究の成果と課題

(1) 生徒の反応 (別紙：学級通信)

- ・他の楽章を聴くことで「大地讃頌」に込められた願いに対する理解を深めることができた。
- ・人類が誕生する前からあった自然をここまで壊してしまったのは人間であり、これからの地球を護っていくのは自分たちだという自覚がもてた生徒もいる。

(2) 研究の成果

- ・環境問題という大きな問題のように感じて、何を実行していけばいいのかわからない生徒も多かったが、授業を通して、自分たちが地球を護るために、身近なことから考えて実行していこうという意欲につながったと思われる。
- ・視聴覚機器を使うことで、より具体的なイメージが持ちやすかったと考えられる。普段の道徳の時間に比べて、すんなりと価値が生徒に入っていくのを感じた。
- ・いつも歌っている曲の意味がわかり、気持ちの込め方が変わっていくようだった。

(3) 事後アンケート

授業後に再度エコ活動についてアンケートをとってみた。

0～4項目実施・・・31.0% (事前との比較+2.4%)

5～9項目実施・・・41.4% (-8.6%)

10項目以上実施・・・27.6% (+6.2%)

となった。10項目以上に生徒がわずかだが上がっていた。

そして、平均も7.2個 (事前では、6.5個) に上がった。(女子だけでは8.3個になった。)

生徒の意識の中に「自然愛護」が芽生えてきているのを感じた。

(4) 今後の課題

- ・授業を通して、一時的な感情に終わらせないために指導の継続が必要であると感じた。具体的な指導については、福祉委員会に協力すること (エコぱんや募金) や生活の中でゴミの分別や資源の無駄遣いを防ぐことではないかと考える。特別なことより、日常生活の中でできることを継続していきたい。
- ・一部のクラスだけにとどまらず、全クラスでの実施を試みたい。
- ・「畏敬の念」についての資料は少なく、資料の開発の必要性を感じた。

〈資料〉

事前アンケート

3年 男 ・ 女

1 自然体験について

次の体験を物心ついた時から今までにしたことがありますか。【記憶にあるもの】

あてはまるものに○をつけましょう。

- ア 流れ星を見たことがあるか。
- イ オリオン座を見つけられる。
- ウ 日食を見たことがある。
- エ 月食を見たことがある。
- オ 虹を見たことがある。
- カ キャンプをしたことがある。
- キ ハイキングをしたことがある。
- ク 登山（2000m以上の山）で山の頂上に立ったことがある。
- ケ 日の出を見たことがある。
- コ 海で泳いだ（入った）ことがある。
- サ 川や湖に入ったことがある。
- シ 釣りをしたことがある。
- ス 生きた魚を手で捕まえたことがある。
- セ 生きもの取り（カブトムシ、トンボ、ザリガニ、沢ガニ）をしたことがある。
- ソ 植物を育てたことがある。
- タ 動物を飼っている。飼ったことがある。
- チ 犬の散歩をしたことがある。
- ツ 雲の上に行ったことがある。（山、気球、ビルの上からみる。）
- テ ピカソ、ゴッホ、モネなどの作品を美術館で見たことがある。
- ト 紅葉を見に行ったことがある。
- ナ きのこと、りんご、ぶどう、なし狩りなどに行ったことがある。
- ニ スキーをしたことがある。
- ヌ 温泉に入ったことがある。
- ネ 樹を植えたことがある。
- ノ 神様を信じる。
- ハ お化けを信じる。
- ヒ サンタクロースを信じる。
- フ 田植えの手伝いをしたことがある。
- ヘ 稲刈りの手伝いをしたことがある。
- ホ 畑の手伝いをしたことがある。

2 自然愛護について

今までの生活で行っていることは何ですか。とくに習慣になっているものを選びなさい。

- ア ペットボトルを捨てるときは、つぶしている。
- イ ペットボトルを洗ってから捨てている。
- ウ ペットボトルのラベルを必ずはがす。
- エ 資源ごみの日を知っている。
- オ 空き缶を分けて捨てている。
- カ ペットボトルのキャップを集めている。
- キ 生ごみ処理機がある。(電気、コンポスト、EM菌など)
- ク ごみの分別日を知っている。
- ケ 紙類は資源ごみで出す。
- コ マイバックをもって買い物に行く。
- サ 過剰包装は断る。
- シ 箸、スプーンなどは断る。
- ス マイボトルを持っている。
- セ マイ箸、マイコップを持ち歩くことがある。
- ソ 水の無駄遣いはしない。
- タ 電気のつけっぱなしはしない。コンセントごと抜く。
- チ グリーンカーテンをやった。
- ツ 使い捨てではなく、何度も使える商品を買うようにしている。
- テ 今使っているシャープペン(文房具は)1年以上使っている。
- ト 廃品回収に参加した。【お手伝いとして】
- ナ リサイクル品を売ったことがある。
- ニ その他()

3 環境問題についてあなたの関心のあるもの、調べてみたいと思うものは何ですか。

- ア 地球温暖化 イ 酸性雨 ウ 森林減少 砂漠化 エ オゾン層の破壊
- オ CO₂削減 カ ごみ問題 キ 節電・節水 ク 異常気象
- ケ 大気汚染 コ 水質汚染 サ 自然エネルギー シ 原子力発電
- ソ その他()

4 東日本大震災について「自然」「人工的」という語を用いて感想を書きなさい。

ROAD TO THE FUTURE

K y o w a J H S 3 - 4

N o . 2 0

N o v 1 1 2 0 1 1

道徳の時間に「大地讃頌」の曲についてみんなで考えました。「大地讃頌」は「土の歌」という曲の第7楽章の部分です。今年も合唱コンクールで全校合唱として披露します。

「これから自然とどのように関わりながら生活していくべきか。心構えを書きましょう。」

- 自然に人は勝てない。自然は雄大で恐ろしいものなのにそれがわからない愚かな人間は自然を破壊して、災害は恐ろしいものだと勝手に思い込んでいる。考えて行動しなくてはならない。豊かな自然を壊してはいけない。大地に感謝して生きていこう。
- 自分がこの自然で生きていられることのありがたさを感じて、できるだけ自然に負担をかけないように生きていこうと思った。
- 人間は自然とともに共生していかななくてはならない。自然をぼくたちは守らなければならない。だから少しでも電気の無駄遣い等を減らして自然を守るような生活をしたい。
- 自然を壊さないようにする。自然のことを考えてたくさんE C O活動をする。資源を大切にす。必要以上の開拓を行わない。
- 自然は人間を成長させ、人間は自然を成長させる、なくてはならない存在。共に生きる。
- 自然には優しく大切に接したいと思った。壊したり、汚したりしない。自然に感謝。
- これからも自然を大切にしていけばいいと思う。自然を汚さないためには、自分たちなりにごみを落とさないとかごみは落ちていたら拾って、きれいにすればいいと思います。
- 自然は今、東日本大震災の影響で大変なことになっていると思う。津波があったところは、海から流れてきたごみなどでいっぱいだと思う。これからは自然を大切にす、ごみなどを拾っていききたいです。

- 自然は人間だけのものではないから譲り合って生きていくことが大切。簡単に自然を壊してはいけない。自然が無かったら人間は生きていけないから、感謝しなければならない。
- 自然とは守るべきもので、必要以上に傷つけないようにする。自然があるからこそその人間だと思うので、少しは感謝するべきだと思う。
- 自然は人間よりも先にできていたのに、今、人間のせいで壊されつつあるので、森などの自然も少なくなってきているから、もっと自然を大切にしたい。それに今回の震災でもたくさんの自然が壊されたと思います。今E C O活動などを行っているので、少しでも自然を壊さないようにできたらいいです。
- 今ある自然を壊さず、逆にもっと樹などを増やす。自然、植物を大切にする。海や川にごみを捨てずもとあったありのままに戻す。地球が作り出した自然に感謝しよう。
- 身近なところにある樹を私たち人間の勝手に切ってしまうということはこれからはやめたほうがいいと思う。この「土の歌」は「地球を大切にしよう」「この地球の自然を壊すな」と私たちに訴えているように感じる。この間の大震災も自然の怒りによって起こった震災なのでは？
- ポイ捨てをしないで、資源の無駄遣いをしない。地球をもっと大切にする。エコをたくさんして、植物をたくさん植えて、これ以上地球の環境に悪いことをしない。
- 自然は美しいけど、こわいときもある。災害が起こってしまうのは地球温暖化のせいでもあるので、人がエコを心掛ければ少しは災害が防げると思っています。だからこれからは、今まで以上にエコに力を入れていきたいです。

事後アンケート

3年 男 ・ 女

1 自然体験について

次の体験をしてみたいと思うものに○をつけましょう。

- ア 流れ星を見たい。
- イ オリオン座を見つけたい。
- ウ 日食を見たい。
- エ 月食を見たい。
- オ 虹を見たい。
- カ キャンプをしたい。
- キ ハイキングをしたい。
- ク 登山（2000m以上の山）で山の頂上に立ってみたい。
- ケ 日の出を見たい。
- コ 海で泳ぎたい。
- サ 川や湖に入ってみたい。（行きたい。）
- シ 釣りをしたい。
- ス 生きた魚を手で捕まえてみたい。
- セ いきもの取り（カブトムシ、トンボ、ザリガニ、沢ガニ）をしたい。
- ソ 植物を育てたい。
- タ 動物を飼ってみたい。
- チ 犬の散歩をしたい。
- ツ 雲の上に行ってみたい。（山、気球、ビルの上からみる。）
- テ ピカソ、ゴッホ、モネなどの作品をみてみたい。
- ト 紅葉を見に行きたい。
- ナ きのこと、りんご、ぶどう、なし狩りなどに行きたい。
- ニ スキーをしたい。
- ヌ 温泉にいきたい。
- ネ 樹を植えてみたい。
- ノ 神様に祈りたい。
- ハ パワースポットに行ってみたい。
- ヒ 稲刈り、田植えの手伝いをしてみたい。
- フ 畑の手伝いをしたい。
- ヘ 祖父母に会いたい。

2 自然愛護について

今までの生活で行っていること、始めたことは何ですか。次の中から選びなさい。

- ア ペットボトルを捨てる時は、つぶしている。
- イ ペットボトルを洗ってから捨てている。

- ウ ペットボトルのラベルを必ずはがす。
- エ 資源ごみの日を知っている。
- オ 空き缶を分けて捨てている。
- カ ペットボトルのキャップを集めている。
- キ 生ごみ処理機がある。(電気、コンポスト、EM菌など)
- ク ごみの分別日を知っている。
- ケ 紙類は資源ごみで出す。
- コ エコバックをもって買い物に行く。
- サ 過剰包装は断る。
- シ 箸、スプーンなどは断る。
- ス マイボトルを持っている。
- セ マイ箸、マイコップを持ち歩くこともある。
- ソ 水の無駄遣いはしない。
- タ 電気のつけっぱなしはしない。コンセントごと抜く。
- チ グリーンカーテンをやった。
- ツ 使い捨てではなく、何度も使える商品を買うようにしている。
- テ 今使っているシャープペンは(文房具は)1年以上使っている。
- ト 廃品回収に参加した。【お手伝いとして】
- ナ リサイクル品を売ったことがある。
- ニ その他()

項目	記号
今までにやったことがある	
最近始めた	

3 自分たちでできる環境問題の解決策は知っていますか。わかるもののみ書いてみよう。

項目	解決策
ア 地球温暖化	
イ 酸性雨	
ウ 森林減少 砂漠化	
エ オゾン層の破壊	
オ ごみ問題	
カ 外来種	
キ 異常気象	
ク 大気汚染	
ケ 水質汚染	
コ その他	

～自然への畏敬からせまる中学校の実践例4～

道徳学習指導案

1 主題名 自然への畏敬

2 学習指導要領

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

- －(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。

3 本授業の主題について

畏敬とは、「敬う」という意味での尊敬、尊重と、「畏れる」という意味での畏怖という面とが含まれている。自然とのかかわりを深く認識すれば、人間は様々な意味で有限なものであり、自然の中で生かされていることを自覚することができる。現代では、科学の発達とともに、人間と自然とのかかわりが薄れてきているように思われがちであるが、むしろ逆で、それらは強く求められている。私たちは、大自然の持つ偉大さと、それを知り共存していく相互性の中に、人間のすばらしい文化が成立することに気づく。これまでの生物の進化があったからこそ今の私たちが存在する、そう思えることが、自分をひとまわり大きくさせてくれる。そして、自分も何かできるのではと思えるようになる。自然に対する畏敬の念を感じ取ることは、自分の心を広げ、自分が意欲的な行動を起こす力となるのである。大自然が生み育てた命と人間の命との合作を通して、自然に対する畏敬の念と人間の行為の美しさや心の美しさを、生徒に感じ取らせたい。それによって、生徒は、自分の生き方に新たな価値観を備えていくことができると考える。

4 生徒の実態

普段の学校生活において、非常に活発に活動し何事に対しても意欲が旺盛なクラスである。しかし、時と場に応じた言葉遣いや言動が不十分であるため、相手を傷つけてしまうこともある。

一方、総合的な学習の時間における、リサイクルをテーマに活動する先輩の取組に進んで協力していた。牛乳パックのリサイクルやペットボトルキャップの回収に意欲的に協力する姿からは、環境問題への関心の高さを伺うことができた。また、理科の授業に対する意欲的な学習態度からは、自然への関心の高さが予想される。

修学旅行を来年度に控え、この資料を通して、大自然が生み育てた命の尊さと、その命を人間が生かしていることを知らせたい。その上で文化財を見学させ、自然に対する畏敬の念と人間の行為の美しさや心の美しさを生徒に感じ取らせられたらと思う。

5 各教科・領域との関連

事前	道徳の時間	事後
理科Ⅱ 「生物の進化」	主題名 「自然への畏敬」 資料名 「木の命 木の心」	学校行事 「修学旅行」
40億年間の命のつながりについてふれ、わたしたちが現存する不思議について押さえる。	資料を通して、自然の偉大さに感動するとともに、人間と自然とのかかわりの中に生み出される美しいものに感動する心情を養う。その際、事前の生物の進化で感じた不思議を基盤として自然への畏敬について考える。	京都・奈良で古代建築のすばらしさにふれ、大自然を生かしてきた先人の偉大さに思いをはせるとともに、自分たちが未来へとつなげる役目を担っているということを意識する。
事前の言語活動	道徳の時間の言語活動	事後の言語活動
自然界の長い年月の中での命のつながりについて、不思議に思ったことや感想を書き留めておく。	事前の感想をもとにして、導入や内面の自覚で自然と人間との関係を考える際の思考の一助とする。	感想を書き、自然と自分との関係について考える。

6 本時の指導

(1) 資料名 木の命 木の心 (東京書籍 中学道徳1 明日をひらく)

(2) ねらい

畏敬の念を深めるということは、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を養うことであることを知り、自然を愛し、護ることといった環境の保全を通して、日常生活の中で生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の心を生み出していこうという気持ちをもつ。

(3) 指導過程の工夫

畏敬の念を深めることの価値がとらえられるよう、指導過程を次のように工夫する。

- ①「偉大」という言葉は自分にとってどのようなものであるかという問題意識を持つ。
- ②資料を手がかりとして、偉大であるということは、自分が感動すると同時に自分にもできる何か気づいたときに思うことであることを明らかにする。

- ③自分も日常生活の中で何かをすることにより、自分を支えてくれている偉大なものに気づいてきたことを知る。
- ④これからの生活に向かって、今、日常生活の中（学校）で、何かをしようという気持ちになる。

（４）資料について

資料『木の命 木の心』を読むことにより、自然や崇高なもののかかわりに関する観点から人間と自然とのかかわりの中に生み出される美しいものに感動することができる。世界最古の木造建築である法隆寺が千三百年前に建てられ、いまだその姿に乱れがないという事実から、大自然が生み育てた命のすばらしさに驚くとともに、その寿命を全うするだけ生かす古代建築の技と知恵のすばらしさに出会う。そして、自然の恵みに感謝し、大切にその命を生かしている先人の行き方に学び、大自然の持つ偉大さと、それを知り共存していく相互性の中に、人間のすばらしい文化が成立していることに気づく。だから、大自然が生み育てた命と人間の命との合作を通して、自然に対する畏敬の念と人間の行為の美しさや心の美しさを感じ取る心をもつことは大切なのである。生徒に、そのような、自然や崇高なもののかかわりの中で自然への畏敬の念を深めている自身の姿をふり返らせたい。

7 成果と課題

道徳の時間の事前、事後を意識して授業に臨もうと教科・領域との関連を考えたが、教科との関連は思うようにはうまくいかなかった。しかし、来年度の修学旅行で、文化財の見学の際に本授業を思い出すことができるように、そして思い出すことで自然に対する畏敬の念と人間の行為の美しさや心の美しさを感じることができるように、事後の関連をより意識していきたいと思う。さらに、今後、環境に関することを考えさせるときに、本授業が生かせるように、思い出す手段を工夫したいと思う。

(5) 展開

	主な学習活動	主な発問と生徒の心と力の高まり	教師の支援
導入	1 偉大なものについて考えてみる。	<p>○みなさんは、どんなことを偉大だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偉人・自然・歴史・親 <p>○自然を偉大だと思う理由を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただただ、すごいと思う。 ・清々しい気持ちにしてくれる ・がんばろうという気持ちになる ・嫌なことを忘れさせてくれる ・空気をきれいにしてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・短冊に書かせ、黒板にはり、私たちは様々なことに感動して生活しているということに気づくきっかけにしたい。 ・自然への偉大だと思う理由から、偉大なことを表す「すごい」という言葉は、ものに対しての言葉ではなくそのときの自分の感動に対しての言葉ではないかという関心を持たせる。 ・TVで、スキー学習のときの写真を見せることで、木に着目させる。 ・木はいつかは枯れる。しかし、人間はそれを生かすことができる力を持っていることにふれ、資料へ入る。
価値の追究・把握	2 資料「木の命木の心」を読んで話し合う。	<p>○古代建築のすばらしさについて、作者はどんなことを述べていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千年の樹齢の檜であれば、千年以上もつ建造物ができる。木の命を生かして使う知恵があった。 ・木の性格を知るために山に入って、木の性質を見越して用材を選定する。 ・大自然が生み育てた命を大切に生かしている。 <p>○作者が檜の原始林に入って、思わず頭を下げてしまうのは、どうしてだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・檜ではなく、神々の立ち並ぶ姿そのものに感じてしまう。 ・二千年もの命を保ち続けて、なお雄大に生きている姿に感動した。 <p>◎『木に申しわけがたたない』『木の性格を知る』『木も人も自然の分身』『木の命と人間の命の合作』という言葉から、どんなことを連想しますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・偉大な大自然の命と人間の命のかかわりについて、意見を引き出しておきたい。 ・できたら、作者の述べていることについての、生徒自身の感想をきく。 ・人間の力を超えたものに対して素直に感じ取る心をわからせたい。そのためには、前の発問で檜の尊さや古代建築と先人とのかかわりを踏まえておきたい。 ・古代建築に携わっている人と木とのかかわりを通して、自然とともに生きる人間の愛着と、自然を大切に生かそうとする感謝の気持ちなどを感

		<ul style="list-style-type: none"> ・どんな木でも、それを生かして大切に扱う。 ・木も人も自然の中で生かされている。 ・自然と人間が力を出し合って仲良くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TVで、法隆寺五重塔と東大寺の写真を見せ、大自然を生かしてきた先人の偉大さに気づかせたい。
価値の内面的自覚	3 日常生活の中で得た「何かをしようとする気持ち」を想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ○あなたたちも自然を生かそうと行動しているよ。 ・部活で ・学級の係活動で ・当番活動で ・委員会活動で ・清掃活動で ・班活動で ・授業で ・家で ○今までの気づきとそのときの気持ちを書いてみよう。 ・私が自然を生かすために行っていることは～です。それは…のために始めました。 ○○○な未来につながると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを大切にしようという気持ちが原動力になっていることに気づかせたい。 ・毎日の積み重ねが未来につながる。自分が行っていることが何につながるのかを書き表すことで、いきいきと生きていく姿をとらえさせたい。
終末	4 互いの生きていく姿を紹介する。	○未来につながる、何かを生かそうとする姿を、みんなに発表しましょう。	・自然への畏敬の念を、よりよく生きることとの関わりでとらえさせて、環境保全の意義を感じとらせたい。

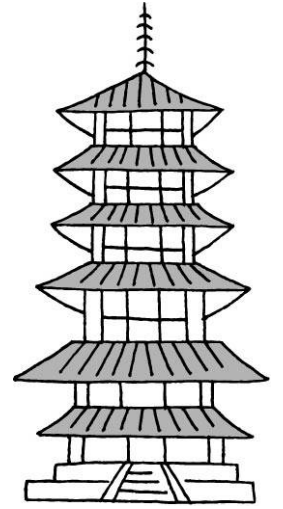
(6) 評価

- ・中心発問において「自然を生かす」ことを考えて発表しようとしているか。
- ・活動3に意欲的に取り組み、今までの自分を振り返ろうとしているか。

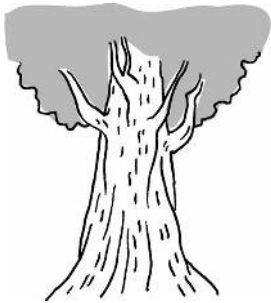
木の命 木の心

年 組 番 名前

- ・ 古代建築のすばらしさについて、作者はどんなことを述べているでしょうか。



- ・ 作者が檜の原始林に入って、思わず頭を下げてしまうのは、どうしてでしょうか。



- ・ 「木に申しわけがたたない」「木の性格を知る」「木も人も自然の分身」「木の命と人間の命の合作」というような言葉から、どのようなことを連想しますか。

<メモ>

私が自然を生かすために
行っていることは

です。それは
のために始めました。

な未来
につながると思います。

年 組 番 氏名

(2) 教科における環境教育の実践

～道徳教育的な視点を加味した理科授業の実践例～

理科学習指導案

平成24年2月

第3学年

1 単元名 科学技術と人間

小単元名 エネルギー資源の利用

2 小単元の目標

- (1) エネルギー資源や様々な発電方法などについて関心を持ち、進んでそれらを探究し、エネルギーの有効利用の大切さについて、日常生活と関連づけて考察しようとする。
- (2) エネルギー資源や様々な発電方法について調べ、その問題点を指摘し、エネルギーを有効に利用する方法を考えたり、科学的に考察したりすることができるようになる。
- (3) エネルギー資源や様々な発電方法とその問題点、効率よくエネルギー資源を利用する方法などについて調べ、自らの考えを加えまとめ、発表することができるようになる。
- (4) エネルギー資源や様々な発電方法などについて理解し、基本的な知識を身に付け、有効な省エネルギーを実現させることの大切さを理解する。

3 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元では、エネルギー資源の利用と環境保全との関連や科学技術の利用と人間生活とのかかわりについて認識を深めるとともに、日常生活と関連づけて科学的に考える態度を養う。特に、化石燃料の利用に関しては、地球温暖化や酸性雨等、全世界共通の今日的な課題であり、本単元を通して学習を進める中で、地球で生活する者の一人としての自覚と果たすべき責任について考える機会となる。

(2) 生徒の実態

生徒は日常、電気エネルギーや化石燃料を使って生活している。それらのエネルギーは、機械によって別のエネルギーに置換されている。そのとき起きる事象は、地球環境に影響するものもあるのだが、そうしたことに生徒はあまり関心をもっていない。そこで、本単元の学習を通して、エネルギーを利用することによってわれわれは便利な生活ができることを認識すると同時に、エネルギー利用による環境への影響とエネルギー資源の有効利用について考えさせたい。

4 学校課題とのかかわり

人としての基本を身に付け、自分で考え、正しく判断し行動できる生徒の育成

学習者の基本としては、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせること、自分から学習する意欲を育てることが大きな課題とされている。ここでは、物理的な現象に関心を持ちその現象を論理的に考えようとする意欲を身に付けさせたい。また、実験観察などを人任せにするのではなく自分なりに考え行動できるようにさせることで、正しく判断し主体的に行動できる生徒の育成に努めたい。

5 人権教育との関連

高い人権意識をもち、人権に配慮した言動がとれる生徒の育成

実験観察や話し合いの中で、机間指導を通して一人一人のつまずきを発見し適切なアドバイスを行うとともに、班内でお互いの意見を安心して言い合える雰囲気づくりにも心がけたい。

6 指導計画

	節	主な学習内容
科学技術と人間	第1節(4時間) ○エネルギー資源の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・電気エネルギーはどこからくるのかを調べる。 ・資源、エネルギーの大量消費をもたらすものを調べる。 ・効率的にエネルギーを使う方法を調べ考える。 ・東日本大震災で起こった原子力発電所の問題を考える。(本時)
	終章(4時間) ○科学技術の進歩と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> ・情報、通信技術と私たちの生活との関わりを調べる。 ・新素材についてインターネット等を使い調べる。 ・環境問題について関連のビデオを視聴して考える。 ・これからの課題について考える。

7 本時の目標

(1) 題目 「東日本大震災で発生した原子力発電所の問題を考える」

(2) 授業の進め方

東北大震災や原子力発電所の問題を題材にしながら、道徳的視点で理科の授業を進めていく。理科の授業であるので、理科の目標を達成させることが大切ではあるが、道徳的な価値観も高められるように授業を工夫して行う。

(3) 指導観

1) 理科の指導観

エネルギー資源の利用と環境保全との関連や科学技術の利用と人間生活とのかかわりについて認識を深めるとともに、日常生活と関連づけて科学的に考える態度を養う。また、環境問題を考えることで、自然環境を保全することの重要性に気づくことが大切であると考え。

2) 道徳教育としての指導観

道徳で言う畏敬とは、「敬う」という意味での尊敬、尊重と、「畏れる」という意味での畏怖という面とが含まれている。自然との関わりを深く認識すれば、人間は様々な意味で有限なものであり、自然の中で生かされていることを自覚することができる。この自覚とともに、人間の力を超えたものを素直に感じとる心が深まり、これに対する畏敬の念が芽生えてくるであろう。また、人間の能力は有限なものであるという自覚は、自他の生命の大切さや尊さ、人間として生きることのすばらしさの自覚につながり、とかく独善的になりやすい人間を反省させ、生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の念を生み出していくものである。

指導に当たっては、自然に対しての感動や畏怖の念、不思議に思ったこと等の体験を生かして、人間と自然を多面的・多角的にとらえさせたい。また、自然を愛し、護ることといった環境の保全を通して、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育んでいきたい。

※1 本内容で高めたい道徳的価値→自然への畏敬の念

※2 本時の指導の成果を見とるための道徳の具体的観点と評価

- 自然に対しての感動や畏怖の念、不思議に思ったこと等の体験を生かして、人間と自然を多面的・多角的にとらえることができるようになったか。 【ワークシート、発表】
- 自然を愛し、護ることといった環境の保全を通して、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育むことができたか。 【ワークシート、発表】

(5) 展開

★人権教育のチェックポイントより

段階	学習活動	教師の支援・留意点	評価（評価方法）
導入 15分	<p>○前時までの学習内容を確認する。</p> <p>○本時の学習内容と学習のめあてを知る。</p> <p>東日本大震災で起こった原子力発電所の問題を考える。</p> <p>○東日本大震災の映像や写真を見る。</p> <p>○感想をワークシートに書き発表する。</p>	<p>○津波や原子力発電所の様子を中心に見せるが、あまりにも生徒にショックを与えると考えられる映像は予め削除しておく。</p> <p>○机間指導を行い、うまくまとめられない生徒には、指導助言を行う。</p> <p>★机間指導によって、一人一人の生徒の感じ方の違いについて把握する。</p>	<p>・東日本大震災の映像や写真を見て、自分の考えを発表することができる。</p> <p>（活動の様子）（発表） （ワークシート）</p>
展開 25分	<p>○科学の歴史について教師の説明を聞く。</p> <p>○科学技術の功罪について考え、それをワークシートにまとめ、発表する。</p> <p>○大震災が発生する前と後で、原子力発電所の立場はどう変わったのかを考える。</p> <p>・原子力発電所の功（光）罪（影）についての説明を聞く。</p> <p>・原子力発電所の功罪について自分の考えをワークシートにまとめ発表する。</p>	<p>○科学の歴史について簡単に板書する。特に産業革命後の科学技術の急速な発展について説明する。</p> <p>○机間指導を行い、うまくまとめられない生徒には、キーワードを与えながら指導を行う。</p> <p>★本時で生かしたい生徒の学習状況を把握する。</p> <p>○原子力発電所の功（光）罪（影）について教師が具体例を挙げて簡単に説明する。</p> <p>○机間指導を行い、うまくまとめられない生徒には、指導助言を行う。</p> <p>★机間指導によって、一人一人の生徒の感じ方の違いについて把握する。</p>	<p>・科学技術の功罪について自分の考えをワークシートにまとめ、発表することができる。</p> <p>（活動の様子） （ワークシート） （発表）</p> <p>・原子力発電所の功罪について自分の考えをワークシートにまとめ、発表することができる。</p> <p>（活動の様子） （ワークシート） （発表）</p>
まとめ 10分	<p>○教師の説話を聞く。</p> <p>○本時の授業の感想を書く。</p>	<p>○人間は絶対ではなく、自然の一部であり、自然そのものである。人間は自然と共に存在することを伝えたい。</p>	<p>・感想をワークシートにまとめることができる。</p> <p>（ワークシート）</p>

(6) 成果と課題

自然にあまり関心のなかった生徒が、この時間の学習を通して、自然に興味を持ち人間の能力の限界等を考えてくれるようになってきた。その芽をいかに摘まずに成長させていくことができるかがこれからの課題である。

科学技術の功罪と原子力発電所

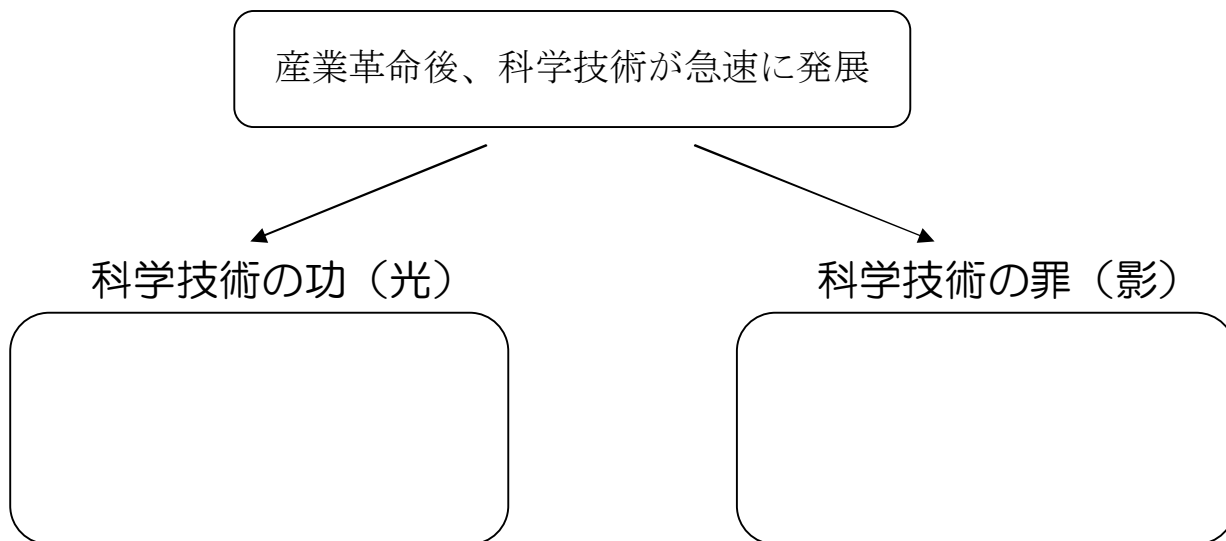
～科学技術の功罪から環境問題について考えてみよう～

3年 組 名前 ()

(1) 東日本大震災に関連したビデオや写真を見た感想を書いてみよう。

→															

(2) 科学技術発展の歴史を考えながら科学の功罪について考えてみよう。



そして、今、問題になっている科学技術

原子力発電所 ← 光 or 影??

東日本大震災時の福島第一原発の事故

事故前・・・電気の需要が多くなりそれを埋めるために原子力発電の果たした役割は大きい。またオール電化のように、人々の生活を便利にしてくれた。

事故後・・・放射能汚染による環境破壊や、約30年の間、その土地には住めないなど多様な問題

(3) 原子力発電所の問題、君たちはどう思いますか？

◎原子力発電所は (光 ・ 影 ・ どちらでもない) ←どれかに○をつけてみよう！
【そこに○をつけた理由を書いてください】

(4) 感想

全体構想図



年間活動計画配列表(3, 4年生)

4年 学年テーマ: 私たちにできることをやろう!! ~環境を考える4年生!~

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちにできることⅠ 葉鹿の町をきれにしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・彦谷川の上流を観察し、各自で気づいたことをまとめる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉鹿町のクリーン作戦を実行する。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の追求したい課題を決め、学習計画を立てる。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちにできることⅡ 「3R運動」に取り組もう(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃油でキャンドル作り(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の分別や再利用 		<ul style="list-style-type: none"> ・EMIについての学習 ・米のとぎ汁EM発酵液 		<ul style="list-style-type: none"> まとめ(2)
学年裁量 健康福祉		<ul style="list-style-type: none"> ・植物を育てよう(1) 				<ul style="list-style-type: none"> ・植物を育てよう(1) 			<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習計画(3) ・まとめ新聞(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・点字の学習会(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の思い出、文集

3年 学年テーマ: 葉鹿大好き ~ぼく、わたしの彦谷川~

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生での生活科を振り返り、もっと調べてみたいことを話し合う(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・彦谷川の上・中流を観察に行き、各自で気づいたことをまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の追求したい課題を決め学習計画を立てる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題ごとのグループで彦谷川の課題追求を行う。(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなまとめの方法を知る。資料を整理し課題ごとのグループで工夫してまとめる。(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことを発表し合い、自分たちも地域の環境に働きかけることに気付かせる。(2) 				
学年裁量 健康福祉		<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードレッスン(9) 					<ul style="list-style-type: none"> 手話で話そう 	<ul style="list-style-type: none"> <あいさつ>(1) 	<ul style="list-style-type: none"> <自己紹介> 	<ul style="list-style-type: none"> <歌> 	<ul style="list-style-type: none"> <歌>
											<ul style="list-style-type: none"> ・情報カリキュラム(1)

年間活動計画配列表(5, 6年生)

6年 学年テーマ:地球からのSOS ～今、自分たちにできることをやろう!～

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの先輩達の取組について振り返ろう(2) ・今年度実践したいことについて話し合う(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにできることは何か改めて考え計画を立てる。(4) 	<p>グループごとの常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ問題:リサイクル活動 水グループ 省エネ ・リサイクル活動:ごみ拾い ペットボトルキャップの回収と活用 生ゴミの堆肥化 ・水質浄化活動:プールへ米のとぎ汁発酵液の投入 ・省エネ活動:教室の電気と水の節約状況を調べる 節約を呼びかける (27) 									
学年裁量 健康福祉		<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行 班別行動の話し合いをしよう(6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行のまとめをしよう。(6) 							<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの方と交流しよう(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式を祝う会の準備をしよう(5) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校音楽祭に参加しよう(6) 					<ul style="list-style-type: none"> ・卒業に向けての準備をしよう。 ・卒業式を創ろう・文集制作・奉仕活動・記念品製作(10) 					

5年 学年テーマ:田んぼの役割を調べよう ～地域の自然を学び、環境について考えよう～

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・EMぼかしを田んぼに散布する(2) ・田んぼの同植物を調べる(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物について身近なところから考えEMについて正しい理解をする。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えの仕方を学び、実践する。(3) ・課題を設定しグループピングを行う。(2) ・田んぼの動植物を調べる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼの中や周りの動植物を調べる。(2) ・調べたことをもとに調べ学習をする。(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習のまとめ(5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲刈りをする。(2) ・田んぼの周りや彦谷川の動植物を調べ、田んぼの役割について考える。(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱穀の仕方を学び、実践する。(2) ・EMぼかしを散布する。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・粃殻をもらってEMぼかし作りをする。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちをお米を使った料理にし、米作りにたずさわった方をお呼びして収穫祭を計画する。(4) ・収穫祭(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼの環境への役割についてまとめる。(3) 	
学年裁量 健康福祉		<ul style="list-style-type: none"> ・日光遠足の事前事後の学習(7) 			<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習の事前学習(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習のまとめ(7) 			<ul style="list-style-type: none"> ・80歳体験(アイマスク、車いす体験)(5) 		

3年生での実践

テーマ「葉鹿小大好き ～ぼくわたしの彦谷川」

・ねらい 地域を知り、地域の自然に親しみ体験の喜びを表現できるようにする。

ねらい	活動内容	備考
①3年生での学習への見通しを持たせ、関心を高める。	・2年生の生活科の学習を振り返りもっと調べてみたいことを話し合う。	
①彦谷川の動植物の観察を通して、自然に親しむことができるようにする。 ②彦谷川の自然について関心を高め、調べようとする。	・彦谷川の上流・中流の観察に行き、生き物や植物について各自で気づいたことをまとめる。	・動植物の図鑑 ・彦谷川水生生物のプリント
①追求したい課題をもち、学習計画を立てられるようにする。	・自分の追求したい課題を決め、学習計画を立てる。	
①彦谷川の動植物を調べたり、本で調べたりさせる。	・課題ごとのグループで彦谷川の課題追求を行う。	
①彦谷川の動植物についてまとめる。	・いろいろなまとめの方法を知る。 ・資料を整理し、課題ごとのグループで工夫してまとめる。	・画用紙 ・模造紙 ・記録用紙
①まとめた内容を発表させる。	・まとめたことを発表し合い、自分たちも地域の環境に働きかけることに気づかせる。	・記録用紙

4年生での実践

テーマ「私たちにできることをやろう！！～環境を考える4年生～」

・ねらい 身近な地域の環境に興味を持ち、自分にできることを実践できるようにする。

ねらい	活動内容	備考
①3年生での学習を振り返り、4年生での学習に見通しを持たせる。	・3年生の彦谷川の学習を振り返り、4年生での学習に見通しをもつ。	
①彦谷川上流部の動植物を調べる。	・彦谷川の上流を観察し、各自で気づいたことをまとめる。	・動植物の図鑑・彦谷川の水生生物プリント
①調べたことをもとに葉鹿の町をきれいにしたいという意識を起こさせる。	私たちにできること I ・葉鹿町クリーン作戦を行う。 ・彦谷川を中心にクリーン活動を実践する。	・動植物の図鑑・彦谷川の水生生物プリント
①追求したい課題をもち、学習計画を立てられるようにする。	自分の追求したい課題を決め、学習計画を立てる。	
①リサイクル活動に興味をもたせ、実践できるようにする。	私たちにできること II ・「3R運動に取り組もう」 ・廃油を使ったアロマキャンドル作り ・紙の分別や再利用	・アロマキャンドル作成キット一式
①EMについて知る。 ②米のとぎ汁EM発酵液の作り方を知り、実践できるようにする。	・EMについて学習し、活用すると環境へ良い働きをしてくれることを知る。 ・米のとぎ汁EM発酵液の作り方を知り、実際に作る。	

5年生での実践

テーマ「田んぼの役割を調べよう」

- ・ねらい 地域の自然に働きかけ、地域の人から学び、心豊かに生きていけるようにする。

ねらい	活動内容	備考
①EMに興味をもたせる。 ②田んぼの周りの動植物を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「EMぼかし」を田んぼに散布する。 ・田んぼの周りの動植物を調べる。 ・調査結果をまとめ感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の図鑑、彦谷川の水生生物プリント
①EMについて知る	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物について身近な所から考えEMについて正しい理解をする。 	
①田植えの方法を知る。 ②EM発酵液を投入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えの仕方を学び実践する。 ・課題を設定し、グルーピングを行う。 ・田んぼの動植物を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田植え用の縄 ・30cmの棒(2)
①米の成長過程について興味をもたせる。 ②成長過程の記録をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バケツに植え付けをする。 ・成長記録のつけ方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バケツ ・稲用の土 ・記録用紙 ・EMぼかし
①田んぼの周りや彦谷川の動植物を調べ、田んぼの役割について考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼの中や周りの動植物を調べる。 ・調べたことをもとに調べ学習をする。 ・調べ学習のまとめをする。 	

<p>①稲刈りの方法を知る。 ②天日干しの利点を知る。 ①田んぼの周りや彦谷川の動植物を調べ、田んぼの役割について考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲刈りをする。 ・ 田んぼの周りや彦谷川の動植物を調べ、田んぼの役割について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲刈り用の鎌 ・ 麻縄
<p>①脱穀の方法を知る</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱穀の仕方を学び実践する。 ・ EMぼかしを散布する。 ・ 籾殻をもらってEMぼかし作りに利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ EMぼかし
<p>①EMぼかしの作り方を 知る。 ②米に捨てるものはない ことを知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 籾殻とぬかを使ってEMぼかしをつくる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>来年の米作り用にEM ぼかしを作っておこう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ EM活性液 ・ EMセラミックパウダー ・ 籾殻 ・ぬか ・ EMぼかし
<p>①感謝の気持ちを育てる。 ②米粉を使った伝統料理を 知り、先人の知恵を知る。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感謝の気持ちをお米を使った料理にし、米作りにたずさわった方をお呼びして収穫祭を計画・実施する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>米を使った活動 今までに行った活動としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 米粉を使った「せんべい」作り ② ヨモギ摘みから草餅作り ③ 焼おにぎり <p>などの発展した活動がありました。その他に、米粉を使った団子作りなども活動として考えられるでしょう。</p> </div>	
<p>①田んぼの環境への役割についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田んぼの環境への役割についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録用紙 ・ 画用紙

総合的な学習の時間（5年）での取組の実践例 米作りを中心とした環境教育全体図

本校の環境教育との関連

本校の環境教育の大きなねらいは、「自然を知る」と「自分でできる積極的な環境保全」である。現在実践している「有用微生物群」(EM)を使った生ゴミ処理や廃油の石鹸作りなど、地球環境の危機的変化に伴う活動の一つであるが、米づくりをとおして、自然を知り、田んぼの役割を知ることで自然環境への興味と関心を高めることができると考えた。

お米の歴史は？

- ① お米の歴史を調べよう。
 - ・ お米はどうやって作られるようになったのだろうか？
- ② お米の作り方を学ぼう。
- ③ お米作りの問題点は？
- ④ 現在の日本のお米作り
 - ・ お米の流通をしらべよう。
 - ・ 諸外国との関係は？

日本人は、なぜ米を主食にしたのだろうか？

- ① 日本の気候
 - ・ 日本の気候との関係について調べる。
 - ② 温暖化が続いたらどうなるだろう。
 - ・ 温暖化がもたらす米づくりの影響について調べる。
- [総合的な学習・社会科]

米づくり



社会科との関連
国語科との関連

古代米をつくろう

- ・ バケツを使って古代米を作る。
- [発展編]

自分で漉いた紙を使って
絵手紙を描こう

図工との関連

家庭科・道徳との
関連

田んぼはどんな役目をしているのかな？

- ① 田んぼと生き物との関係を調べよう。
 - ・ どんな季節にどんな生き物が田んぼにいるのだろうか？
 - ② 田んぼと環境の関係を調べよう。
 - ・ 田んぼがあることで、どのように環境に影響するのだろうか？
- [総合的な学習]

理科との関連





稲刈り後の活動

- ① お米を使った活動
 - ・ 食べる
 - ・ ごほんだけでなく、米粉を使った伝統料理はないかな？
 - ② 籾殻やぬかの利用
 - ・ EMぼかしを作ろう
 - ・ ぬか石鹸を作ろう。
 - ③ 藁の利用
 - ・ 藁を使って非木材パルプを作ろう。
- [総合的な学習]

6年生での実践

テーマ「地球からのSOS～今自分たちにできることをやろう～」

・ねらい 環境保全のために自分たちにできることから取り組むことのできるようにする。

ねらい	活動内容	備考
①先輩達の取り組みを振り返り、活動内容を知る。	・先輩達が環境保全のために取り組んできた内容を振り返り、その活動内容や活動に対する思いを理解する。	・今までの活動のまとめた掲示物など
①環境保全のために自分たちができそうな活動を考えさせる。 ②活動のグルーピングをさせる。	・自分たちにできそうな活動を考える。 ・自分の思いを元に活動のグルーピングをする。	
①グループごとに活動の目的や内容などを決めさせる。	・常時活動できるということを基本としてグループごとに活動内容について話し合う。 ・活動の目的を明確にしておく。	
①環境保全活動に進んで取り組めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 各グループでの常時活動を行う。 水グループ 節水活動 EMを使った水質浄化活動 EM活性液のプールへの投入 使用量の比較    <div data-bbox="880 1444 1189 1715" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 米のとぎ汁をEMで処理して、プールに投入しよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> EM資材 水道使用量表
	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルグループ 学校内で出た不要な紙の回収活動 牛乳パックを使った紙すき体験 <div data-bbox="561 1870 874 2058" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 不要になった紙をリサイクルします。 </div> 	

	<ul style="list-style-type: none"> 省エネグループ 節電活動 使用量の比較 節電効果の啓発活動 <p>みんなの節電意識が高まってきたね。</p> 	電気使用量表
	<ul style="list-style-type: none"> ゴミグループ 学校内のゴミ拾い ゴミの分別と量のチェック <p>月曜日は、ゴミの量が多いね。</p>  <p>ゴミをきちんと分別しよう。</p> 	
<p>①取り組んできた活動を振り返り、活動のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今までに自分たちが取り組んできた活動を振り返りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録用紙

(4) 生活科 (1, 2年生) における環境教育の実践

～鮭の飼育を中心とした活動：後援 葉鹿エコクラブ等～

準備：夏季休業中

浄化装置を稼働させ、水槽内の水を安定させる。



産卵床と産卵の観察



鮭の産卵状況を確認した上で、産卵床と産卵の観察計画を立てる。

幼稚園・保育所への連絡

受精卵の観察と卵の孵化観察・飼育



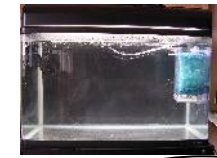
葉鹿エコクラブから、受精卵及びえさを寄贈。あらかじめ用意しておいた水槽で飼育を開始。2学期の終業式頃に孵化予定。

稚魚放流



3月上旬に稚魚放流。幼稚園保育所との合同で、葉鹿橋上流で行う。

1年生にとっては、これから鮭を育てようとする動機づけになり、2年生は一歩進んで「鮭の成長」について調べることにつながるようにしたい。3年生では、これらの体験から、水質について考えることで総合的な学習につなげたい。



早い段階から、水作りをし、水質を安定させた方が稚魚の致死率を抑えられる。



受精卵・餌の配布

受精卵・餌の手配及び配布は、葉鹿エコクラブが幼稚園・小学校・保育所に配布する。卵が孵化するまでは、光を当てないように工夫するが、卵の中に動きが見られるようになったら時間を決めて観察させる。観察時には、絵日記などにまとめさせ、生命の不思議さなどを感じさせたい。



鮭の放流では、稚魚を発砲スチロールの容器に学級ごとに移し現地まで運ぶ。子供たちは、給食での牛乳パックを容器がわりに使って稚魚放流を行う。

(5) 特別活動における環境教育の実践

～学級活動における環境教育の実践例～

「1学級1エコ活動」を生かした学級活動

【目標】

足利市の学校教育指導計画「環境教育の充実」(2) 環境にかかわる体験活動の充実ウ「アルミ缶、牛乳パックやエコキャップ回収、有用微生物の活用、ごみの有効利用等のリサイクル活動に関心をもち、循環型社会に向けての実践力が養えるような指導の工夫に努める。」を受けて、本校では、御厨の教育2011「環境教育」(3) 指導方法の工夫・改善ウに【環境に対して関心をもち、主体的に活動しようとする態度や実践力を育てるために1クラス1エコ運動をする。】と位置づけて取り組んでいる。

【クラスで取り組んでいること】

- ・電気係を中心に移動教室の時に必ず電気を消すようにしている。
- ・使っていない時はトイレの電気を消すようにしている。
- ・教室の背面黒板に「〇〇さん〇個ありがとうございました。」と紙に書いて貼っている。
- ・古紙の利用(計算用紙として使う。習字の時に墨を吸い取る。習字の時に手本を裏紙に印刷する。係の連絡用掲示用紙として使う。)
- ・電灯のこまめなスイッチONとOFFしている。
- ・プリントの再利用をしている。
- ・扇風機の消し忘れに気をつけている。
- ・エコ係以外は扇風機のスイッチに触ることができないようにしている。
- ・電灯は天気によって調節している。
- ・教室を空けるときは扇風機や電気をつけっぱなしになっていないかを確認する。
- ・不要な紙を紙ストッカーに入れている。
- ・使用したいときは裏紙を使っている。
- ・必要な時以外は、コンセントを抜いたり、電気を消したりする。
- ・歌係は、CDをかけた後すぐにコンセントを抜いている。
- ・給食を完食できたり、あまり好きでなくても一生懸命に食べようとしていたらシールを一枚ゲットできるようにしている。
- ・係活動に窓、電気係を作って、教室から離れるときは電気を消させるようにしている。
- ・電気係がないときは気がついた人が電気を消すようにしている。
- ・電気係が電気を消すのを忘れたときは、気がついた児童が消している。また、朝は担任が行くまで電気をつけないようにしている。
- ・クラスにエコ係を作り使用しない電気を消す。コンセントを抜くなどの活動を行っている。
- ・印刷ミスした用紙や残部などの裏が白い紙を活用している。
- ・晴れの日には、明るさに気をつけながら必要のない電気を消すことを心がけている。
- ・水道チェック係を作って確認する。
- ・給食を残さず食べることでごみを減らそうとしている。

【これまでの実績】

- ・エコキャップは40Lの袋半分、プルトップは大きな袋半分ためた。
- ・エコキャップをゴミ袋(大)1袋分集めて公民館へ持って行った。
- ・エコキャップを進んで家から持ってきた子がいる。
- ・エコキャップを集めている。段ボール一箱分以上たまった。
- ・係活動でエコキャップを集めている。
- ・使わない電気を消した。
- ・係が自主的に活動し、2回程度、公民館に運んだ。
- ・エコキャップを集めを呼びかけるポスターが教室に何枚か貼られた。
- ・歯磨き中は水を出さず、必要な分だけコップにとって口をゆすいだ。
- ・字を書いたり、読んだりしない授業の時に支障がないときは廊下側の電気だけを、つけて他の電気は消した。

【児童の変容】

- ・子供たちから進んで「節電しよう。」という声がかかるようになった。
- ・節電や節水に心がける児童が増えた。
- ・学習中は電気をつけているが、給食中や休み時間は電気を消すようになった。
- ・水道を使った後は、蛇口を下に向けて水が止まったことを確認するようになった。
- ・水を大切にしよう呼びかける児童が増えた。
- ・ノートを破いて使う児童が減ってきた。
- ・給食を残さず食べようとして、嫌いな物でも少しは食べるようになった。
- ・家庭でも家族とエコについての話題をだし、取り組んでいる様子がうかがえた。

1 学級 1 エコ活動詳細一覧表

学級	主な活動目標	具体的な活動内容
1 年 1 組	<ul style="list-style-type: none"> ・でんきをたいせつにつかおう。 ・みずをたいせつにつかおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を離れるときは、必ず電気を消す。 ・水を出しっぱなしにしない。
1 年 2 組	<ul style="list-style-type: none"> ・でんきやみずをたいせつにしよう。 ・おとしものをなくそう。 (むだをなくしさいごまでつかう。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・使っていない教室の電気を消す。(休み時間、昼休みなど) ・物には名前を書こう。
1 年 3 組	<ul style="list-style-type: none"> ・教室をはなれるとき勉強のとき、電気を消そう。 ・ものを大切にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・照明はこまめに消し、電気製品のコンセントは抜く。 ・プリントやゴムは再利用する。
1 年 4 組	<ul style="list-style-type: none"> ・でんきをたいせつにつかう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使っていない電気のコンセントを抜く。 ・休み時間や昼休みの電気を消す。
1 年 5 組	<ul style="list-style-type: none"> ・でんきとみずをたいせつにつかう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を出るときは電気を消す。 ・手を洗うときはみずをだしっぱなしにしない。
2 年 1 組	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでむだをしないようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使わないときは電気を消す。 ・使えるものは、また使う。 ・手を洗うときは水を止める。
2 年 2 組	<ul style="list-style-type: none"> ・水をたいせつにつかいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を洗うときは水を出しっぱなしにしない。 ・家でも家族に呼びかける。
2 年 3 組	<ul style="list-style-type: none"> ・でん気や水を大せつにつかおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室から出るときは電気を消す。 ・トイレの電気がついていたら気がついた人が消す。
2 年 4 組	<ul style="list-style-type: none"> ・でん気をつけっぱなしにしない。 ・水をだしっぱなしにしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を出るときは絶対に電気を消す。 ・水道を出しっぱなしにしないようにする。

学級に応じて 1 学級で一つエコ活動を決めている。大きく分けると電気や水、紙や物を大切にすること、エコキャップやプルタブを集める活動が多く見られる。取り組む内容について、学年の発達段階を加味するのではなく、それぞれの学級による子供たちの意見を尊重するようにしている。

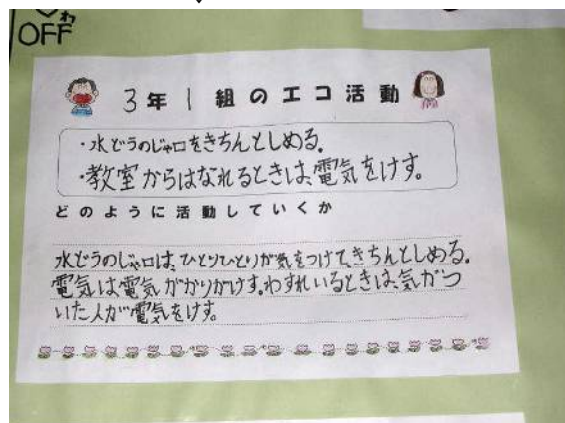
- ・主な活動内容の他にも、「どのように活動していくか」という項目により、具体的な取り組み方を示している。
- ・いつ活動するかや目標としての重さや数を決めている。

3年1組	<ul style="list-style-type: none"> 水どこのじゃ口をきちんとしめる。 教室からはなれるときは、電気をけす。 	<ul style="list-style-type: none"> 水道の蛇口は一人一人が気をつける。 電気は電気係が消す。
3年2組	<ul style="list-style-type: none"> 紙を大切に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙の裏を使う。 習字の時にいらぬ紙を使って片付ける。
3年3組	<ul style="list-style-type: none"> 電気や水のむだづかいをやめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 使っていない電気はこまめに消す。 水道の蛇口はきちんと閉める。 水を出しっぱなしにしない。
3年4組	<ul style="list-style-type: none"> 電気と水をせつやくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気をこまめに消す。 使わないコンセントは抜く。 使わないとき、電気を消す。
4年1組	<ul style="list-style-type: none"> 紙のむだ使いをしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートを破らない。 折り紙をむだにしない。 余った紙はためて使う。
4年2組	<ul style="list-style-type: none"> みんなでエコキャップ・プルタブをあつめよう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルや空き缶は分別して捨てる。 エコキャップを学校へもってくる。
4年3組	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルのキャップを集めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルのキャップは学校へもってくる。
4年4組	<ul style="list-style-type: none"> 水道の水をちゃんと止めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 水道を最後に使った人が責任をもって止める。



←☆職員室廊下に掲示している各学級の取組の一部
(児童が描いたもの)

☆左の写真の一枚を拡大したもの



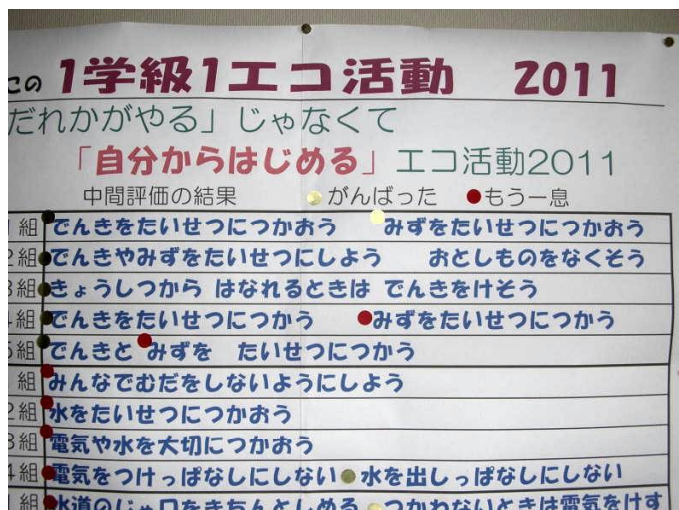
- ・ 掲示物を作成し、職員室廊下に全学年分掲示している。そうすることで、他の学級の活動を理解したり、活動意欲の持続をねらったりしている。

5年1組	<ul style="list-style-type: none"> ・節電、節水を心がける。 ・キャップ、プルタブ集めをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽が出ているときは電気を消す。 ・キャップやプルタブを学校へもってくる。
5年2組	<ul style="list-style-type: none"> ・プルタブを集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プルタブを集める。
5年3組	<ul style="list-style-type: none"> ・電気を大切に使います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい日は休み時間、給食、清掃中消します。
5年4組	<ul style="list-style-type: none"> ・節電と節水 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を洗うときは水を止める。 ・晴れているときは窓際の電気を消す。
6年1組	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップを800個以上集める。 ・電気をこまめに消す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日に集める。 ・毎週金曜日までに係児童が数える。
6年2組	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップを集める。 ・使わない電気は消す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日係児童が声掛けをする。 ・教室を開けるときは電気を消す。
6年3組	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップとプルトップを集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップを20Kg、プルトップを5Kg 集める。 ・使わない電気は消す。
6年4組	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルのキャップ集め 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップ800 個集める。 ・係児童が帰りの会で呼びかけたり、数の途中経過を報告する。
くすのき	<ul style="list-style-type: none"> ・水を大切に使う ・使わない電灯を消す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水をたくさん流しすぎない。 ・教室を出るときは電気を消す。
こすもす	<ul style="list-style-type: none"> ・電気をこまめに消す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使っていないときは、電気を消す。
ゆりの木	<ul style="list-style-type: none"> ・きゅうしょくをのこさずたべよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌いな物でも少しは食べる。 ・残さず食べたら、シールがもらえる。

(各学級の一覧表)



一部を拡大したもの



☆9月が終わった時点で、これまでの活動の振り返りをし、金と赤の二色のシールで中間評価を行い、今後の活動に役立てている。

～学校行事における地域社会との連携を図った環境教育の実践例～

ク リ ー ン 活 動 実 施 計 画

1 ねらい

- (1) クリーン活動を通して、自分たちの住む地域を大切にする態度を育てる。
- (2) 全体に奉仕する態度を育てるとともに、地域社会との連帯感を育てる。
- (3) 地域の方々と協力して作業することを通して交流を深める。
- (4) 班の人と協力して活動することにより、相手の気持ちや立場を理解しようとする態度を育てる。

人権教育のねらい

- 自分たちの生活の向上と身の回りの諸問題を解決するために、粘り強く主体的に活動できる実践力を持った児童の育成
- 相手の気持ちや立場を理解し、互いのよさを認め合い励まし合いながら、問題を解決していく児童の育成

2 実施期日及び時程

19日はB日課に変更

平成23年10月19日(水) 第5・6校時 [雨天の場合は中止]

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 12:00～12:50 | 給食 |
| 12:50～13:10 | 諸注意・連絡・下校指導(1～6年生全児童下校) |
| ～14:00 | 現地集合 |
| 14:00～14:10 | 出席確認・諸注意・あいさつ |
| 14:10～15:00 | クリーン活動 分別・整理等 |
| 15:00～15:10 | 反省会・あいさつ(終了次第解散) |

3 対象学年

3～6学年(活動日が水曜ですが、行事2時間扱い) 1・2年生は欠課(1)

4 準備する物・分担

- 大きなビニル袋 クリーン活動係が職員室前に準備
- ごみばさみ(各地域担当職員人数分) "
- ゴミ回収用トラック2台(レンタル手続き) . . . 教頭先生
- ゴミ引き取りの依頼連絡 教頭先生・クリーン活動係
(活動の実施日と時刻をクリーンセンターへ)
- PTA役員への連絡と出欠の確認、担当分担 . . . 主幹教務(P事務局担当者)
(PTA役員は、本部役員・校外指導部員・学年委員とする)
- 燃えるゴミ、燃えないゴミ、危険物の明示 . . . クリーン活動係
(回収したゴミを校庭に集めるための)

5 その他留意事項

- (1) 下校時、現地への集合、活動中の交通事故防止、危険物によるけがの防止等、事前・事入念な指導をする。
- (2) 集合時間・終了時刻が、地域によって大幅にずれることがないように、各地域担当者は十分に配慮する。
- (3) 活動中、老人会の方やPTA役員さんなどの地域の人々と進んで対話するなど、親しみのある態度がとれるように指導しておく。
- (4) 各町内とも、開始・終了時には、きちんとあいさつをするなど、けじめをつけた行動をとるようにさせる。(地域の方の紹介やあいさつも入れる。)
☆参加して下さった地域の方、役員の方を児童のグループに入れてもらう。
- (5) ごみは、現地で「燃えるごみ」「缶」「ビン」「その他の危険物」に分けて集める。そして、回収車が各活動場所をまわり集めて、学校まで運んでくる。
(学校に集まったごみは、クリーンセンターに回収してもらう。)
- (6) ごみばさみは、活動終了後、きれいにして返却する。

6 事前・事中・事後の指導

主な活動内容		指導上の留意点
事前	<p>1 児童への事前指導</p> <p style="text-align: center;">別紙：〈資料1〉</p> <p>(1) 活動の趣旨を知らせ、しっかりとした目的をもって参加させるようにする。</p> <p>(2) 日時・場所・日程・準備する物等を確認させておく。場所及び活動メンバー、活動方法については事前に1時間扱い(行事)で町内ごとに指導する。</p> <p>事前指導【10月14日(金)6校時】</p> <p>(3) 安全に対する指導を十分に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本活動の目的を、学年の発達段階に応じてよく理解させておく。 ・人数が一カ所に集中しないようにする。 ・特に事前指導では、島田団地は南町に、上渋垂と伊勢の集合場所を間違えないように、担当の教員が指導にあたる。 ・特に対自動車の安全指導を徹底する。 <p>◎地域をきれいにしようという気持ちが高まるように、各担任や担当者が言葉掛けをする。</p>
事中	<p>2 日程 【19日はB日課】</p> <p>1:10 下校</p> <p>2:00 集合・あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童はビニル袋・軍手を用意 ・職員は軍手・ごみ袋・ごみばさみを用意。(学校にある物) <p>☆お手伝いの方の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の確認。 <p>2:10 活動開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれてごみの収集 ・収集した物を、「燃えるごみ」「缶」「ビン」「その他」に分け、所定の集積場所に運ぶ。 <p style="text-align: center;">別紙：〈資料2〉</p> <p>3:00 反省会・あいさつ</p> <p>3:10 解散。</p> <p>※回収車担当</p> <p>※回収車がごみを集めて回る。それまで担当教師は待っている。</p>	<p><ごみの処理></p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 可燃ごみと缶、ビン、その他の危険物に分けて回収する。 (2) 集積場所については、別紙参照のこと。 (3) クリーンセンターには本計画書を事前に提出し許可を得ておく。 ※学校(校庭)へ回収に来てもらうことも連絡しておく。(教頭) <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 職員用の軍手、ごみ袋、ごみばさみは、係で用意する。 (2) 職員は、実施前に集合場所やその周辺を確認しておき、当日不測の事態が生じないようにする。 (3) P T A・自治会・老人会等へは、地域との連携、福祉教育との関わりを重視する上からもできるだけ参加を呼びかける。 <p>◎児童の活動の様子を観察し、意欲的に活動できるように言葉掛けをする。</p>
事後	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化の活動は、このときだけではなく日々続けていくことを知らせる。 <p>◎きれいになった喜びを十分に感じ取らせ、自分たちの住んでいる地域をいつもきれいにしておこうという気持ちがもてるような言葉がけを随時行う。</p>	

〈資料1〉

ク リ ー ン 活 動 事 前 指 導

- 1 日 時・・・平成23年10月14日(金)第6校時
- 2 指導場所・・・下記の表を参照のこと・・・
- 3 指導事項
 - ① 活動班の編成(児童の住んでいる場所を考慮する。)
 - ② 活動場所分担
 - ③ 活動方法、内容について
 - ④ その他、始めの会・終わりの会の司会決めなど
- 4 学区外通学の児童は事前に活動場所を担当と相談し決定

備考・天王学童の子は天王へ集合
 ・みくりや学童の子と、こだま学童の子は南町へ集合、ひかり学童は八木町へ集合
 ・島田団地は南町へ集合
 ・上渋垂と伊勢が間違えやすいので、注意する。

	活 動 場 所	担 当 者	会 場	集 合 場 所	ごみ集積場所	地 図
八木町	母衣輪神社境内 福居駅 児童公園 ひかり学童		6-1	母衣輪神社	母衣輪神社	A
				児童公園	児童公園北	B
栄町	二柱神社、児童遊園地 小林商店前、50号下駐車場		4-3	二柱神社	二柱神社 北側道路	C
天王	鹿島神社 児童公園 天王学童		5-3	鹿島神社	鹿島神社 北側道路	D
和泉	竜泉寺 赤城神社 橋本商店より駅		5-1	竜泉寺	竜泉寺山門前 道路	E
中里	宝福寺 飯有公園		3-1	宝福寺 飯有公園	宝福寺 50号バイパス下	F G
南町	日限地藏、稲荷神社、福居歩道橋、学校周辺、みくりや学童、こだま学童 島田団地		2-3	稲荷神社 学校	学校正門	H
上渋垂	赤城神社 東光寺		6-4	東光寺	東光寺山門前	I
伊勢	団地公園勝光寺 青木商店前空き地		1-2	団地公園	団地公園	J
百頭	神明宮周辺、旧協和中周辺 齋藤病院～ヤマグチ		第2 音楽室	神明宮	神明宮入口	K
島田	八坂神社 御厨神社 稲荷神社		学習室	八坂神社	八坂神社	L
荒金	円性院 天神様		3の4	円性院	円性院	M

〈資料2〉



活動場所

	名 前	学年クラス		名 前	学年クラス
1		年 組	26		年 組
2		年 組	27		年 組
3		年 組	28		年 組
4		年 組	29		年 組
5		年 組	30		年 組
6		年 組	31		年 組
7		年 組	32		年 組
8		年 組	33		年 組
9		年 組	34		年 組



分別をして集まったごみ
↓



↑
クリーン活動をしている
児童たち
「〇〇ちゃんが燃えるごみ
ね。」と自然と分担し
ながら活動している。

↑
☆活動場所ごとに名簿を作成し、参加児童を把握する。
活動終了後に名簿はクリーン係に提出する。

7 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ・環境教育に関する調査を行ったことで、各学校のクリーン活動や有用微生物の活用などの実態を把握することができた。
- ・道徳の時間における指導事例をまとめることができた。その課程において、研究員同士の教材研究を深めることができた。
- ・理科（中学校）・生活科・総合的な学習の時間（小学校）・特別活動（小学校）等において、環境教育に関する実践事例をまとめることができた。また、学校・地域社会と連携した地域クリーン活動についての事例も紹介できた。

(2) 今後の課題

- ・平成24年度より、中学校でも新学習指導要領が全面実施となる。そこで、各教科における環境教育に関する内容について整理をしていく必要がある。
- ・東日本大震災を経験し、より一層の節電・節水等の省エネ意識を高めていく活動や指導の在り方について研究していく必要がある。
- ・学校や地域の実態に合わせ環境教育の充実が図れるよう、研究の成果と課題について、広報誌等でPRしていくことが必要である。

平成22・23年度研究員

- ・森 直樹（御厨小学校）
- ・長竹 研（坂西北小学校）
- ・小暮 忠博（葉鹿小学校）
- ・羽田 耕造（北 中学校）
- ・中島 知子（協和中学校）
- ・内藤 真喜（愛宕台中学校）

担当研究職員

- ・関根 景子 佐藤 宏行